

軽費老人ホーム・ケアハウスにおける個別支援と地域支援の展開

—地域共生社会の実現に向けて—

○北本佳子（昭和女子大学・1611）

一般社団法人全国軽費老人ホーム協議会（9034）

1. 研究目的

今日の地域福祉政策で求められている地域共生社会の実現にあたっては、「支え手」「受け手」という関係を超えて、誰もが役割と生きがいを持ち、支え・支えられる関係の形成とそれを可能とする地域社会づくりがその要となると言える。また、そこでは個人の個別の課題解決（個別支援）と地域の課題解決を目指した地域づくり（地域支援）という地域を基盤としたソーシャルワークの二つの支援機能の一体的展開が求められている。この二つの支援機能の一体的展開に関しては、従来は社会福祉協議会等の地域福祉の推進団体による実践や研究が主であったと言えるが、一般社団法人全国軽費老人ホーム協議会（以下、全軽協）では、その二つの支援機能の一体的展開を目指す個別支援計画のシート（様式）を開発し、実践を行ってきている。そこで、本研究では、軽費老人ホーム・ケアハウス（以下、軽費老人ホーム）における個別支援と地域支援の展開に関する現状（有効性）や今後の課題を明らかにするとともに、地域共生社会の実現に向けての課題を考察することを目的とする。

2. 研究の方法

全軽協では、利用者の強み（ストレングス）や興味・関心などのその人らしさを大切にした支援（エンパワメント支援）を可能とする「あなたらしさ応援プラン」を開発し、さらにそのアセスメント項目（21項目）に地域とのつながりに関する項目を加え、利用者の個別の課題を地域のニーズや地域の課題解決と連動させて個別支援計画を立てるシートにバージョンアップした。バージョンアップした「あなたらしさ応援プラン」（第2版）を活用して、個別支援と地域支援を連動させた個別支援計画を立てて実践をしている先進事例施設（4施設）へのインタビュー調査と全軽協の全会員施設（491施設）を対象にアンケート調査を実施した（有効回答率47.5%）。（詳細は学会当日に発表）

3. 倫理的配慮

インタビュー調査では、本会の規定をもとに、研究倫理を遵守することを協力者に文書で説明した上、同意を得て実施した。アンケート調査においても、本会の規定をもとに研究倫理を遵守することと、本学会において個人が特定化しない形で発表することを明記した上で実施し、回答を得た。

4. 結果・考察

インタビュー調査からは、「あなたらしさ応援プラン」による利用者の強みやその人らしさをもとにした支援計画の実施で、利用者が役割や生きがいを持つことができ、さらに利用者同士の支え合いが可能になるなどの効果が見られたが、それに地域とのかかわりや地域課題を意識した支援を連動させることで、利用者の役割や生きがいが広がるとともに、地域のニーズ対応や課題対応等も可能となっていた。地域とのかかわりを意識することで職員の支援の視点の高まりや対応方法の広がりなどの効果も見られた。さらにその成功体験等から職員自身のエンパワメントにもつながっていることが確認された。アンケート調査では、地域とのかかわりを加えた第2版（2022年6月29日刊行）から1年弱であるが、26施設（11%）が「あなたらしさ応援プラン」を活用した個別支援計画を立てていることと、利用はしていないが関心があるという回答が73施設（31%）あることが明らかになった。また、地域とのかかわりを入れたことのメリットとしては、インタビュー調査と同様の結果が明らかになった。さらに、研修の受講有無が活用の要因としてあることが確認されたほか、地域とのかかわりが支援内容に活かされるためには、地域の社会資源について職員がもっと知ることや職員の能力・資質の向上、軽費老人ホームの認知度の向上、社会福祉協議会などから地域の社会資源情報を得ることなどが課題としてあげられた。大会当日には詳細な結果と今後の展開に向けた課題等を提示する。

調査対象

全国軽費老人ホーム協議会 社員施設
軽費老人ホーム 491件

調査方法

調査対象に対し、郵送で調査票を送付、また電子メールにて調査票データを送信した。
あわせて、Googleフォームで回答できるようにアンケートフォームのQRコードも付記した。
調査票への回答方法は、FAXにて事務局へ返信もしくは、Googleフォームでの回答送信とした。

調査期間

令和5年2月7日から令和5年3月10日

回収状況

配布数：491件
回答数：233件
回答率：47.5%

調査主体

一般社団法人全国軽費老人ホーム協議会
調査研究委員会

1-1) 事業所の種別を教えてください。(N=233)

選択肢	回答数
軽費老人ホームA型	70
軽費老人ホームB型	3
ケアハウス	135
ケアハウス, 特定施設入居者生活介護	24
都市型ケアハウス	1

1-2) 事業所の所在地を教えてください。(N=233)

選択肢	回答数
北海道	37
東北(青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)	34
関東(茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県)	43
東海北陸(富山県、石川県、福井県、岐阜県、愛知県、三重県)	18
近畿(滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)	20
四国(徳島県、香川県、愛媛県、高知県)	24
中国(鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県)	31
九州(福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県)	26

1-3) 施設の定員数を教えてください。(N=233)

選択肢	回答数
~20人	16
21人~30人	32
31人~40人	11
41人~50人	118
51人~60人	19
61人~70人	11
71人~80人	11
81人~90人	3
91人~100人	10
101人~	2

1-4) 施設の職員数を教えてください。(常勤+非常勤(常勤換算数))(委託職員を除く)(N=233)

選択肢	回答数
~5人	38
6人~10人	69
11人~15人	53
16人~20人	40
21人~	29
(空白)	4

2-1) 「あなたらしさ応援プラン」を知っていますか。(N=233)

選択肢	回答数
知っている	135
知らない	92
その他	4
(空白)	2

その他回答
名前だけ知っている。
聞いた事しかない
おおむね知っている。
詳しくは分からない

2-2) 『あなたらしさ応援プラン 地域共生社会における生活支援 第2版』※を読みましたか。(N=233)

選択肢	回答数
全部読んだ	13

ほとんど読んだ	34
一部読んだ	68
ほとんど読んでない	21
読んでいない	94
その他	0
(空白)	3

2-3) 「あなたらしさ応援プラン」に関する研修を受けたことがありますか。(回答者以外の貴施設内職員の方を含む)
(N=233)

選択肢	回答数
ある	53
ない	178
その他	0
(空白)	2

2-4) 「あなたらしさ応援プラン」の認知度・利用状況について(N=233)

選択肢	回答数
「あなたらしさ応援プラン」を、利用している → 2-5) へ	26
「あなたらしさ応援プラン」に関心があるが、利用していない → 2-11) へ	73
「あなたらしさ応援プラン」を利用していない → 2-12) へ	130
(空白)	4

2-5) 「あなたらしさ応援プラン」を使って個別支援計画を立てているケース数を教えてください。(N=26)

選択肢	回答数
0人	2
1人~5人	4
6人~10人	4
11人~15人	2
16人~20人	3
21人~25人	2
26人~30人	2
31人~	7
その他	0

2-6) 「あなたらしさ応援プラン」のアセスメントシートに、新たに加わったアセスメント項目「地域とのかかわり」欄に入力しているケース数を教えてください。(N=26)

選択肢	回答数
0人	11
1人~5人	7
6人~10人	2
11人~15人	3
16人~20人	2
21人~25人	1
26人~30人	0
31人~	0
その他	0

2-7) 「あなたらしさ応援プラン」のアセスメントシートに、新たに加わったアセスメント項目「地域とのかかわり」を個別支援計画書の支援内容に活かしているケース数を教えてください。(N=26)

選択肢	回答数
0人	13
1人~5人	9
6人~10人	2
11人~15人	1
16人~20人	0
21人~25人	1
26人~30人	0
31人~	0

その他	0
-----	---

2-8) 「あなたらしき応援プラン」利用前から、個別支援計画に「地域とのかかわり」について、意識をしてプランを立てていたかどうかを教えてください。(N=26)

選択肢	回答数
「あなたらしき応援プラン」を利用する前から「地域とのかかわり」を意識していた	9
「あなたらしき応援プラン」を利用してから「地域とのかかわり」を意識した	9
「地域とのかかわり」を意識していない	3
その他	5

その他回答
施設入居者も地域の一員であるという意識はあるが、コロナ禍で外出制限や入館制限をしている中で、地域との関わりをもつ難しさを感じている。また、アセスメントシートの活用が十分になされていない現状がある。まだそこまで進んでいない。
個別支援計画を作成していない。
プランの原案は分担しており、原案の作成者によって違う面あり
コロナ禍の生活になり、地域とのかかわりが難しくなっている

2-9) 「あなたらしき応援プラン」のアセスメントシートに、アセスメント項目「地域とのかかわり」を入れたことによるメリットは、どのような点にあると思いますか。(複数回答)(N=53)

選択肢	回答数	回答割合
利用者のニーズの対応方法の幅が広がった	15	28.3%
施設と地域との交流が増えた	4	7.5%
職員のアセスメント力が強化された	7	13.2%
利用者の支援計画が充実した	6	11.3%
職員の視野が広がった	11	20.8%
地域の社会資源に関する職員の意識・関心が高まった	7	13.2%
その他	3	5.7%

その他回答
介護サービスだけではなく、生きがい支援を心掛けていることが施設の支援の特色として打ち出すことが出来る
2-8の回答と同じ。
不明

2-10) 「あなたらしき応援プラン」の効果を発揮しやすい対象者の特性は、どのようなことだとお考えです →回答終了後 2-1
3)へ(複数回答)(N=77)

選択肢	回答数	回答割合
意思表示の有無	13	16.9%
希望や要望の多寡	18	23.4%
介護の非認定や認定介護度	4	5.2%
入居期間の長短	1	1.3%
認知症状の有無	8	10.4%
趣味や興味関心の多寡	23	29.9%
生活歴の多寡	8	10.4%
その他	2	2.6%

その他回答
本人の性格(意欲的・社会的・奉仕的な方が結びつきやすい)
何かしたい、してみたいけど何をしたいかわからないという方

2-11) 「あなたらしき応援プラン」を利用していない理由を教えてください。(関心があるが利用していない)(複数回答)(N=122)

選択肢	回答数	回答割合
手間がかかりそうだから	20	16.4%
人手が足りないから	26	21.3%
費用が気になるから	22	18.0%
パソコン操作が苦手だから	11	9.0%
始め方、使い方がわからないから	15	12.3%

パソコン、タブレットを持っていないから	2	1.6%
インターネット環境がないから	2	1.6%
別のソフトを使っているから	10	8.2%
その他	14	11.5%

その他回答
Care Growthを体験中
CareGrowth導入等新しいことに取り組む体制が取れていない
ケアプランで充足すると考えている
現場は新たな事を導入することに積極的ではない
行ってきたいところだが現状そこまで手が回っていない
主に操作するであろう職員がPCに不慣れなため
少しずつ入力作業をすすめているところです
職員、入居者の出入が多く、時間をかけられない。
職員に、周知徹底不足
職員のスキルがついていけない
職員の機運が育ってないから。
特定契約者のケアプラン作成で手一杯の状況
独自の個別支援計画を作成している為
来年度から利用の方向

2-12) 「あなたらしき応援プラン」を利用していない理由を教えてください。(利用していない)(複数回答)(N=126)

選択肢	回答数	回答割合
介護保険のケアプランで十分だと思っているから	23	18.3%
別のソフトを使っているから。	30	23.8%
個別支援計画を立てる必要性を感じないから。	4	3.2%
手間が掛かりそうだから。	17	13.5%
費用が気になるから	19	15.1%
その他	33	26.2%

その他回答
そもそも知らなかったから
それがどんなものかを知らないので検討していないから
よく理解していないから
何の事かわかりません
個別支援計画へ反映させる良い資料ですが、立案時どうしても苑生活の継続維持の為の健康面やハード面をフォローする内容となる為、利用に至らない
個別支援計画を立てる時間がない
施設の支援計画を作成しているため
施設独自の支援計画書を使用しているから。
施設独自の様式を用いてケアプランを作成している
施設内のもので充足しているため
自作のエクセルシート使用している。
主導する職員がいない
詳しく知らない為
人員に余裕がないため
人手不足
知らないから
知らなかった
知らなかった
知らなかった
知らなかった
知らなかった
知らなかった。
知らなかったです
知らなかったの
知らなかったの
知らなかったの
特に理由はありませ

特定施設でもないため現在の個別計画で十分と考えているため
特定施設契約はケアプラン以外の外部サービス利用者と混合している
内容を周知してから利用に繋げていきたいと思う
入居時に個別の目標設定を行っている為
認知しておりませんでした
勉強不足のためどのような内容か知ってから検討したい
理解不足

2-13) 「あなたらしき応援プラン」の活用が進むためには、なにが必要だと思いますか？(複数回答)(N=444)

選択肢	回答数	回答割合
「あなたらしき応援プラン」の作成に関する研修が充実すること	92	20.7%
「あなたらしき応援プラン」のソフトの使い方に関する研修や説明書が充実すること	93	20.9%
「あなたらしき応援プラン」を活用した事例集など実際の活用状況を周知すること	112	25.2%
「あなたらしき応援プラン」のソフトの利用金額が安くなること	59	13.3%
現在使用しているソフトとの互換性があること	54	12.2%
L I F E (科学的介護情報システム)との連動性がさらに高まること	26	5.9%
その他	8	1.8%

その他回答
これを使うことによる加算がついた時には、爆発的に利用者が増えるとおもう。(その理由は悲しいですが現実的)
介護保険に特化したソフトの様に保険請求(通常のケアプラン)も兼ねられるオプションがあれば利用者は増えると思う。
現状のケアプランと連動し、手間が掛からなくなる。
人手と時間
特定は別のソフトでプランをたてているから。
内容を知らないのでも必要か、良く解らない。
入居者の意識も大切かと思えます。
利用者様とじっくりお話する時間と人

2-14) 個別支援計画において「地域とのかかわり」が支援内容に活かされることが推進されるためには、なにが必要だと思いますか？(複数回答)(N=541)

選択肢	回答数	回答割合
「あなたらしき応援プラン」の活用を広げること	47	8.7%
個別支援計画に「地域とのかかわり」を入れた事例の実際をより多く伝えること	82	15.2%
社会福祉協議会などから地域の社会資源情報を得ること	58	10.7%
地域の社会資源について職員がもっと知ること	100	18.5%
「地域とのかかわり」を入れた計画をたてられるように職員の能力・資質の向上すること	81	15.0%
「地域とのかかわり」を入れた計画を実行できる職員体制をつくること	79	14.6%
地域住民の施設(軽費・ケアハウス)についての認知度を高めること	94	17.4%
その他	0	0.0%

3) 地域共生社会の実現に向けて、軽費・ケアハウスが果たす役割として、以下の項目の中で現在行っているものと、もし地域とのかかわりが得られたら(地域住民や地域からの協力が得られ)、職員体制の強化ができれば今後実施したいと思う取り組みはどれですか。(複数回答)

選択肢	現在	今後
低所得高齢者への居住の提供	149	28
在宅生活が困難な高齢障害者への居住の提供	112	34
病院や施設から退所した高齢者への居住の提供	170	21
刑務所や矯正施設から退所した高齢者への居住の提供	16	55
一時的に在宅生活が困難になった高齢者への一時入居支援	69	58
特別養護老人ホーム入所までの待機・代替施設としての一時入居支援	66	49
DVや虐待被害を受けた高齢者の保護(シェルター)	85	52
在宅生活を前提とした上での一時的・短期的な利用	56	55
共生型福祉サービス等による高齢障害者の支援	34	59
介護や在宅生活に不安を抱える軽度要介護者の入居等の支援	181	26
困難な生活課題(精神疾患やごみ屋敷等の日常生活管理が困難等)を抱える高齢者への入居等の支援	104	41
在宅生活を希望する高齢者・困窮者等が地域で生活を続けるための生活支援(居住支援法人との連携等)	38	75

社会福祉法人等の他機関との連携・協働による相談支援ネットワークへの参画	76	97
在宅高齢者に対する相談支援・アウトリーチ活動	37	84
配食や見守り等の生活支援が必要な在宅高齢者への支援	38	69
高齢者の居場所づくり、生きがいをづくりに関する支援	69	109

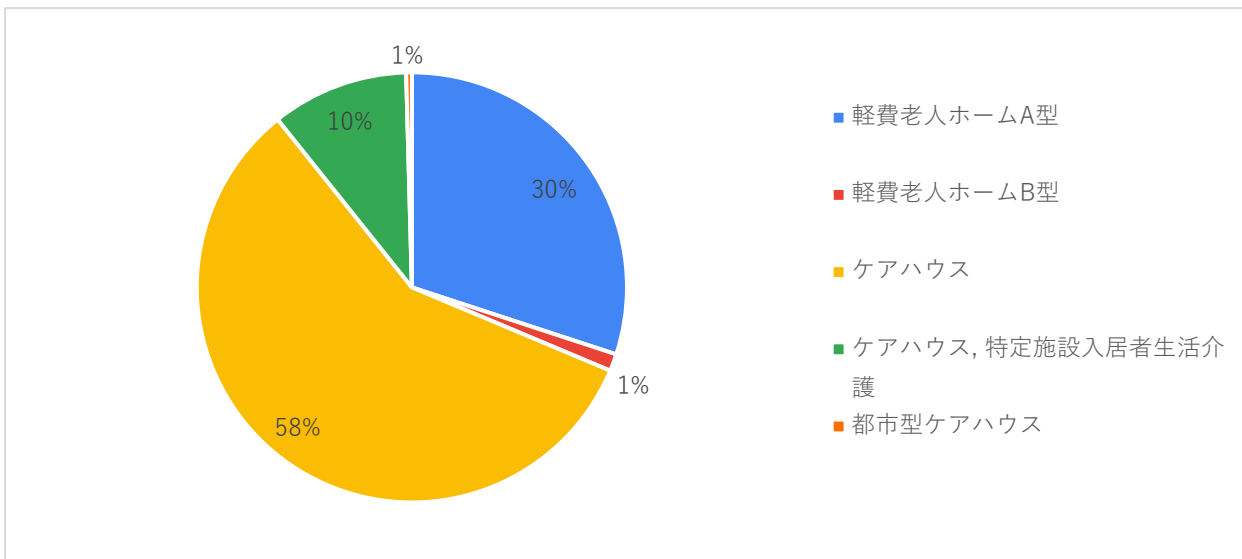
7-3) 回答者職種(N=233)

職種	回答数	回答割合
理事長	3	1.3%
施設長	138	59.2%
副施設長・施設長補佐・事務長・事業部長・総務福祉課長	8	3.4%
主任生活相談員・生活相談員・相談員	56	24.0%
介護支援専門員	2	0.9%
介護職員	5	2.1%
事務員	10	4.3%
その他	1	0.4%
無回答	10	4.3%

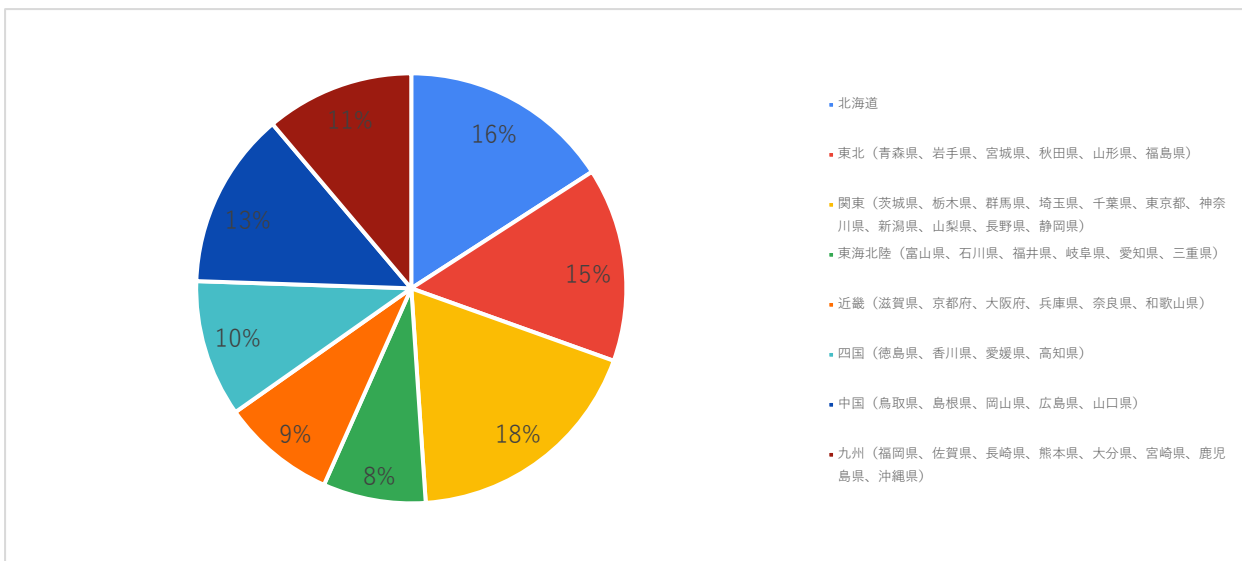
その他回答

業務主査

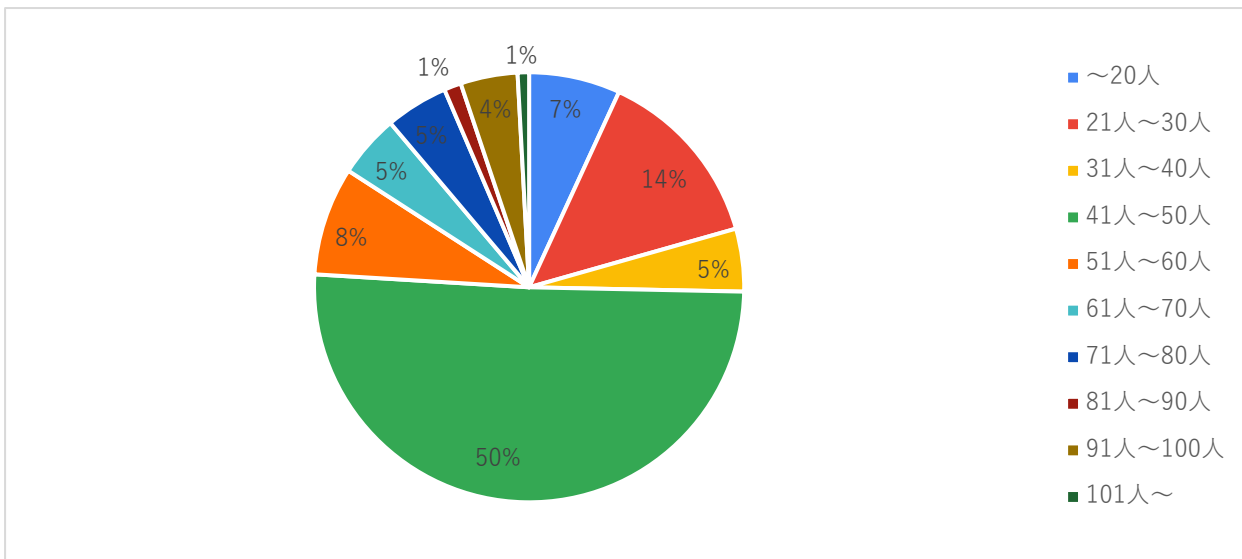
1-1) 事業所の種別を教えてください。



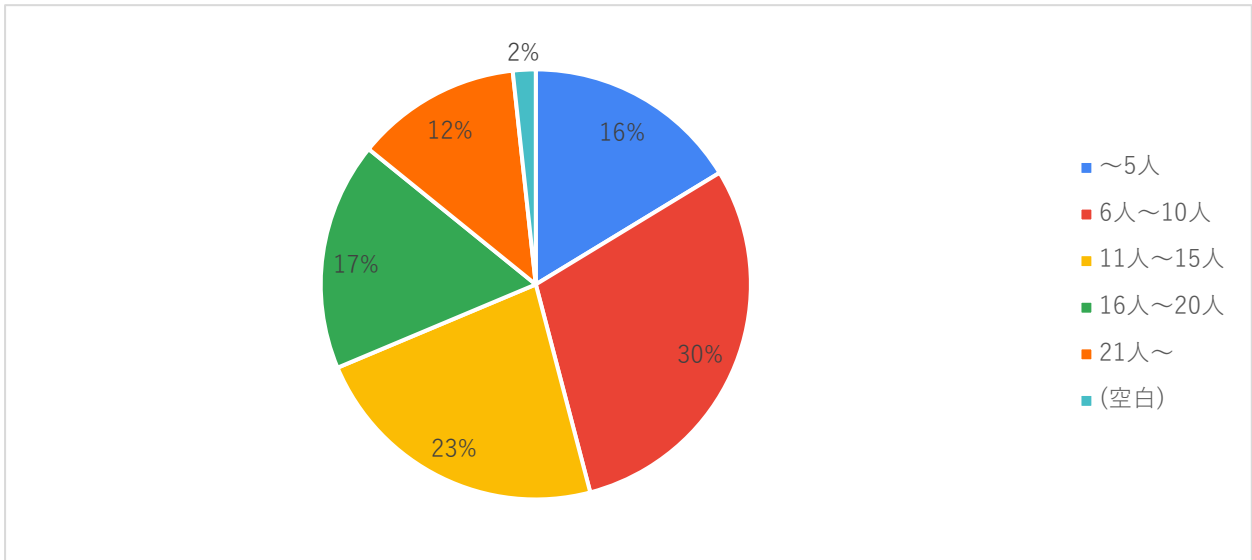
1-2) 事業所の所在地を教えてください。



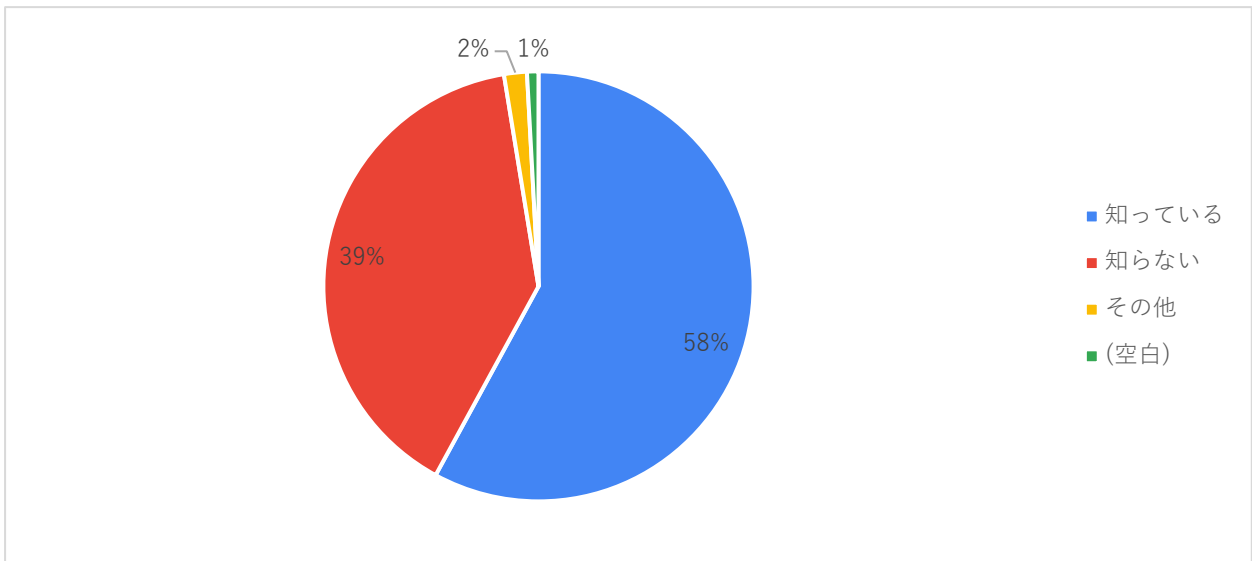
1-3) 施設の定員数を教えてください。



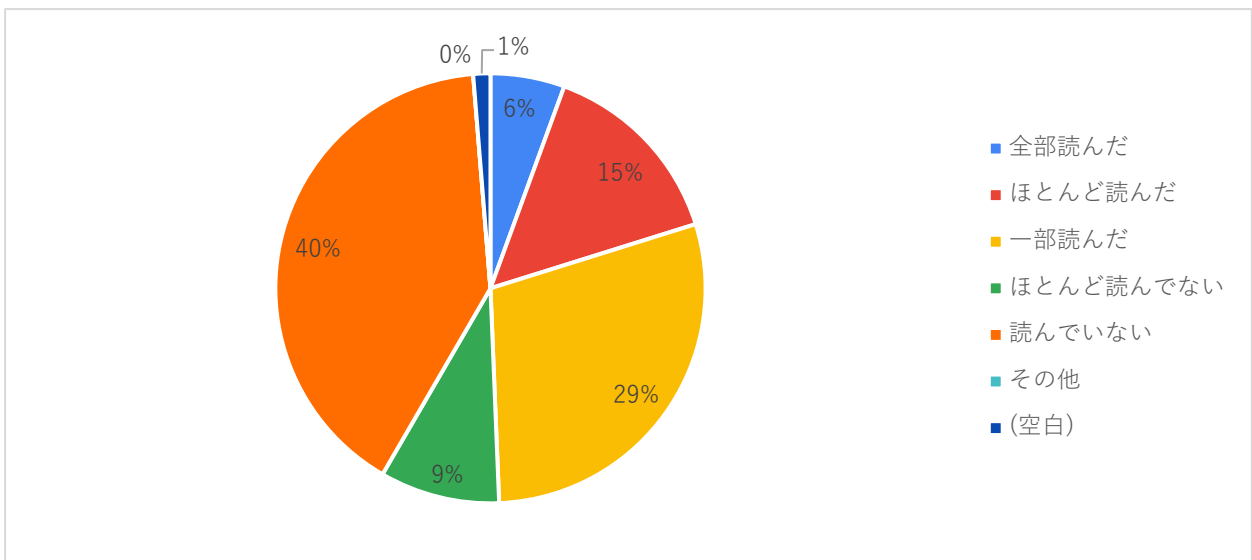
1-4) 施設の職員数を教えてください。(常勤+非常勤(常勤換算数))(委託職員を除く)



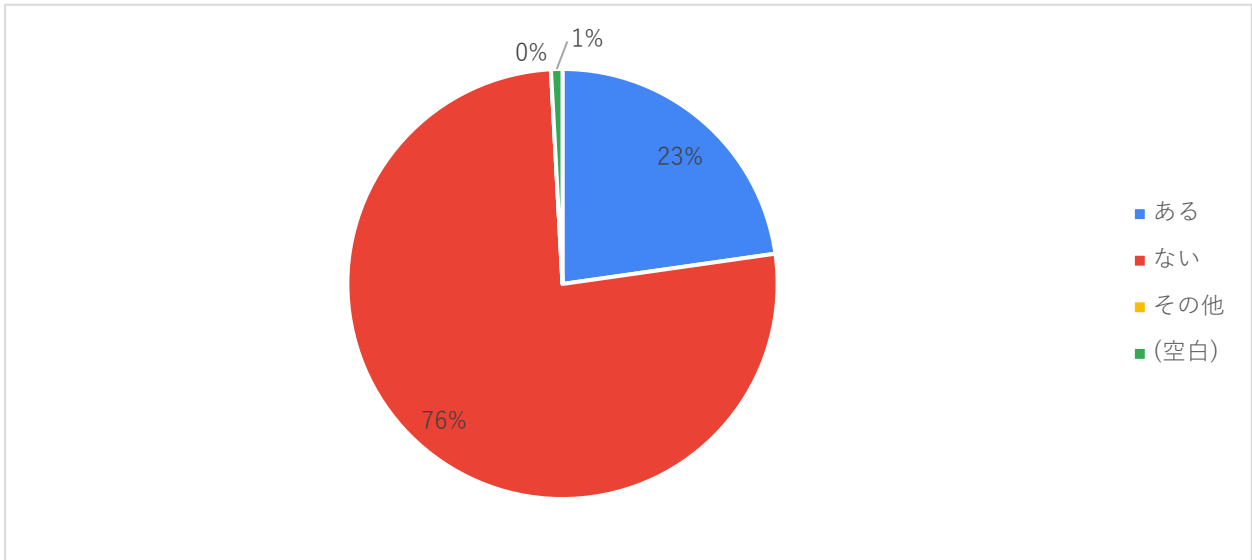
2-1) 「あなたらしさ応援プラン」を知っていますか。



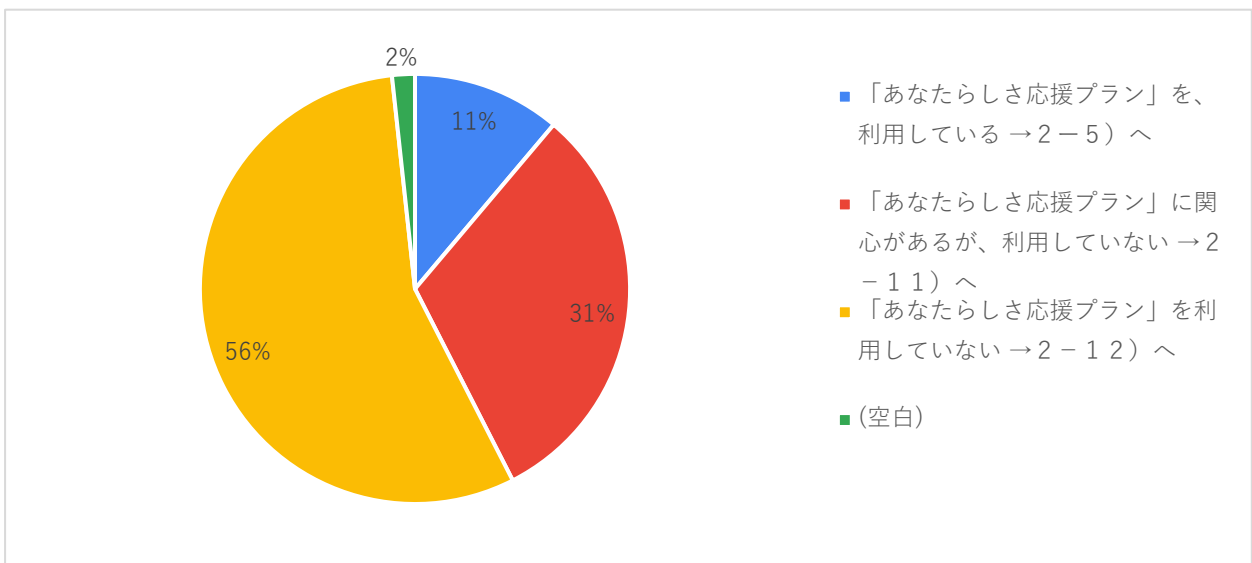
2-2) 『あなたらしさ応援プラン 地域共生社会における生活支援 第2版』※を読みましたか。



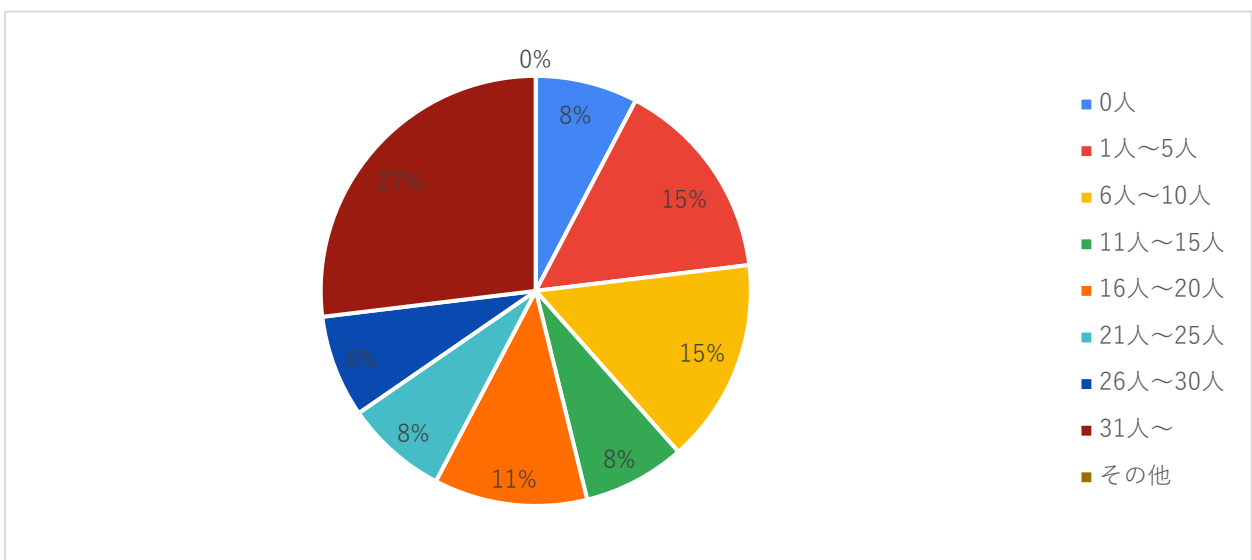
2-3) 「あなたらしさ応援プラン」に関する研修を受けたことがありますか。(回答者以外の貴施設内職員の方を含む)



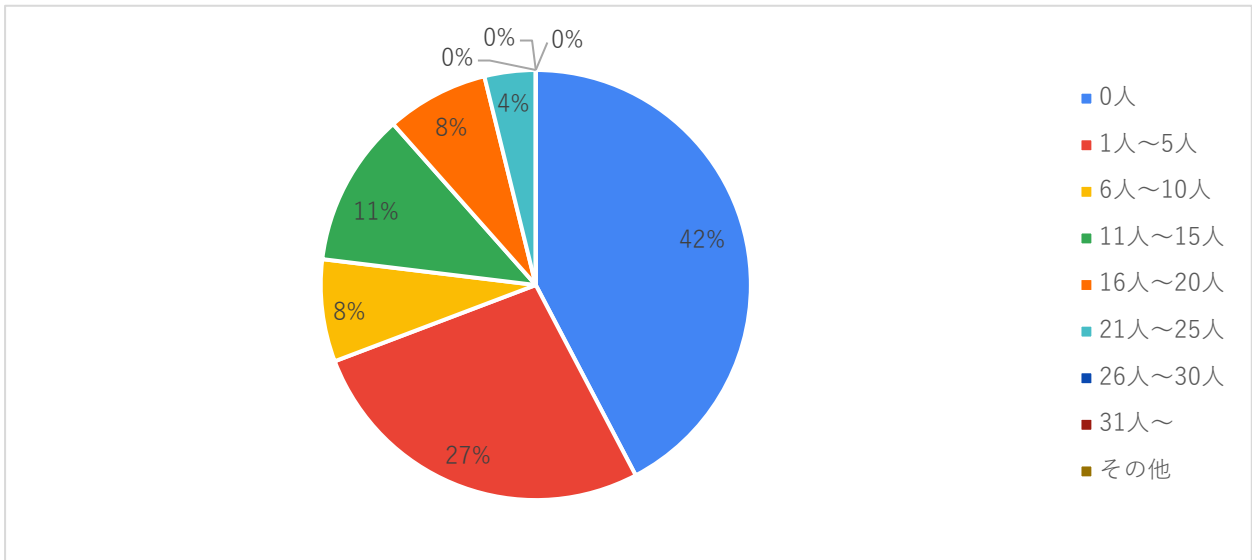
2-4) 「あなたらしさ応援プラン」の認知度・利用状況について



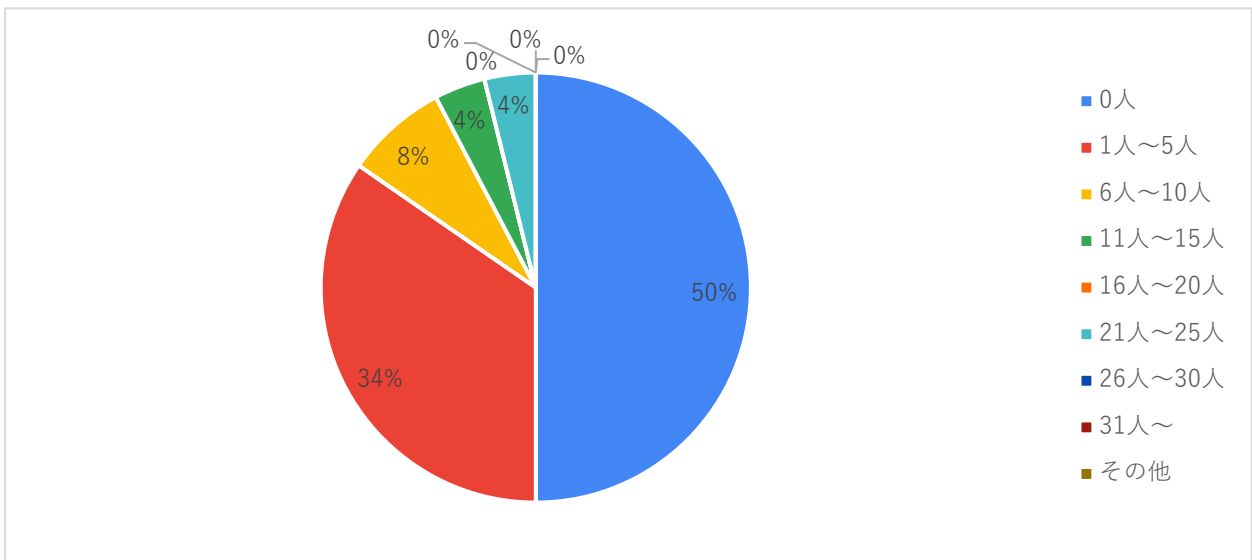
2-5) 「あなたらしさ応援プラン」を使って個別支援計画を立てているケース数を教えてください。



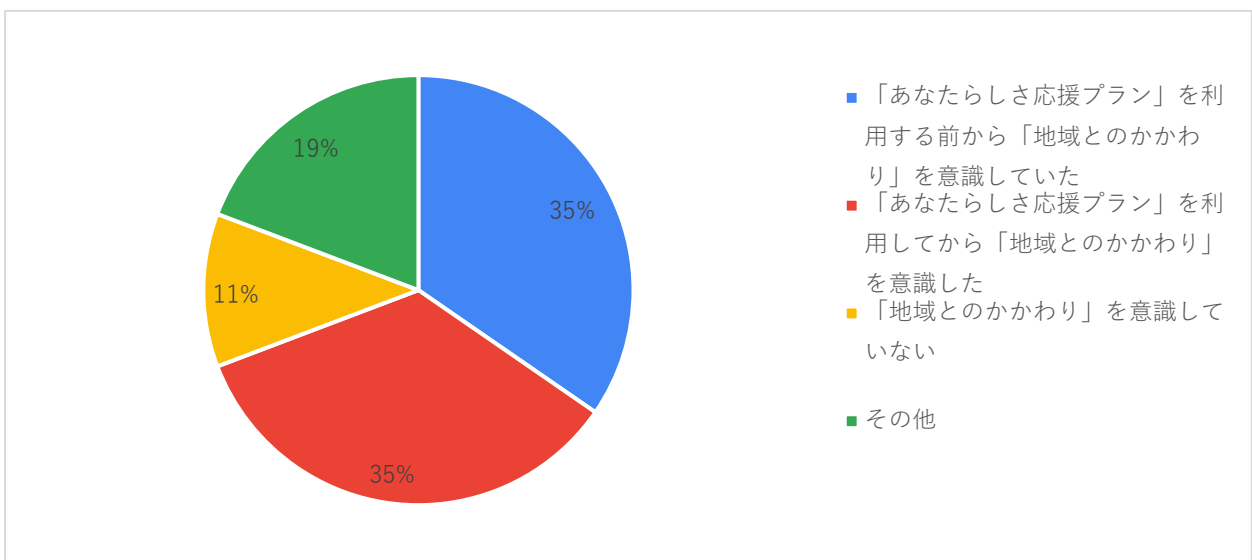
2-6) 「あなたらしさ応援プラン」のアセスメントシートに、新たに加わったアセスメント項目「地域とのかかわり」欄に入力をしているケース数を教えてください。



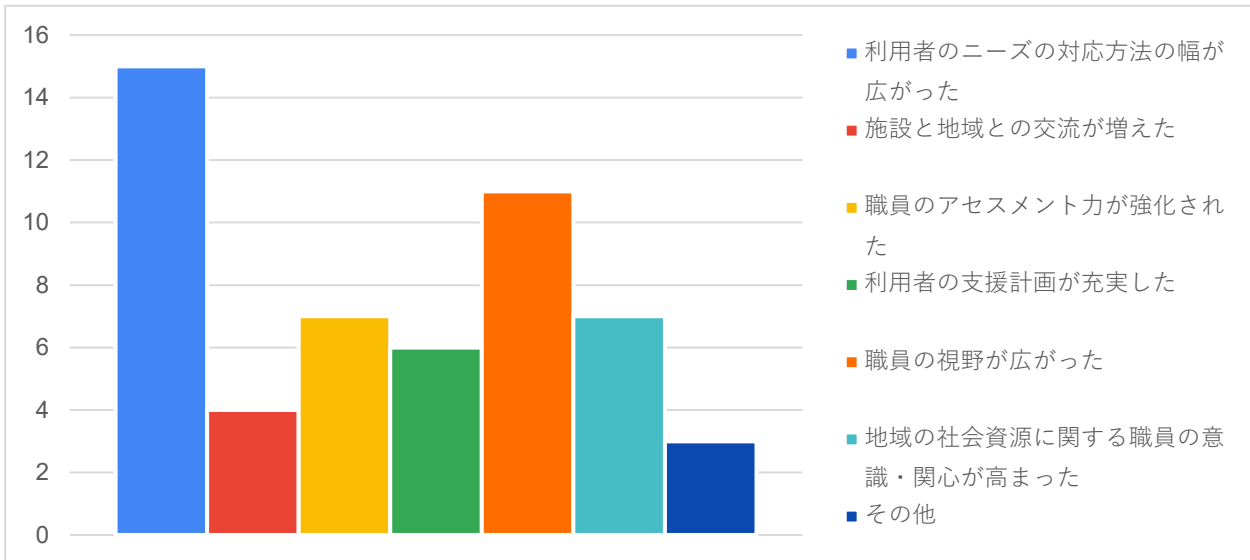
2-7) 「あなたらしさ応援プラン」のアセスメントシートに、新たに加わったアセスメント項目「地域とのかかわり」を個別支援計画書の支援内容に活かしているケース数を教えてください。



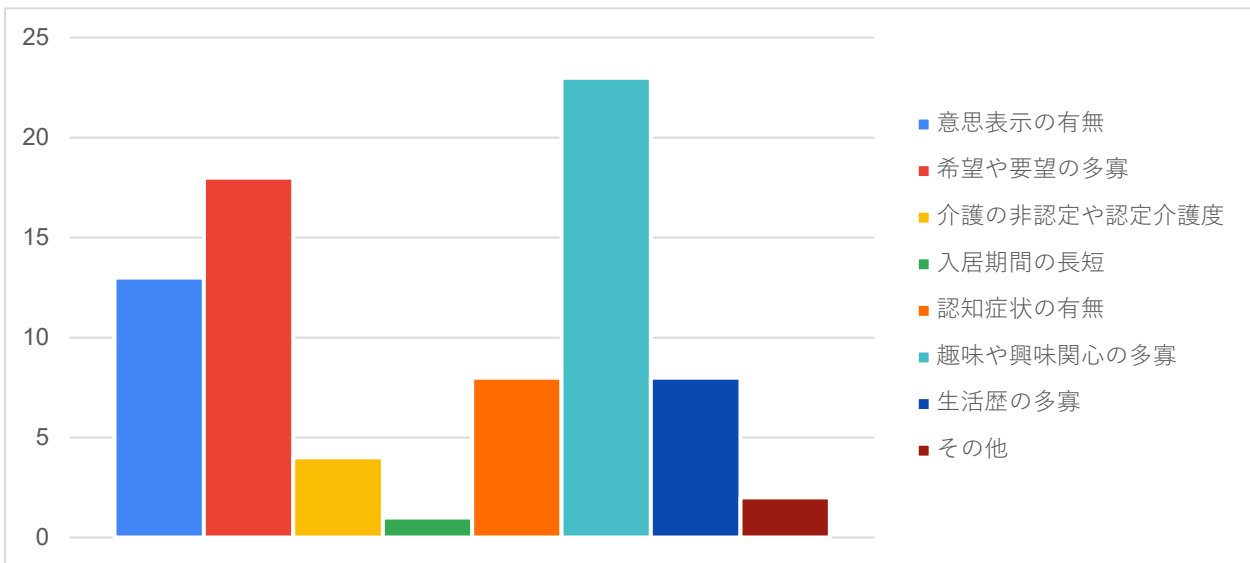
2-8) 「あなたらしさ応援プラン」利用前から、個別支援計画に「地域とのかかわり」について、意識をしてプランを立てていたかどうかを教えてください。



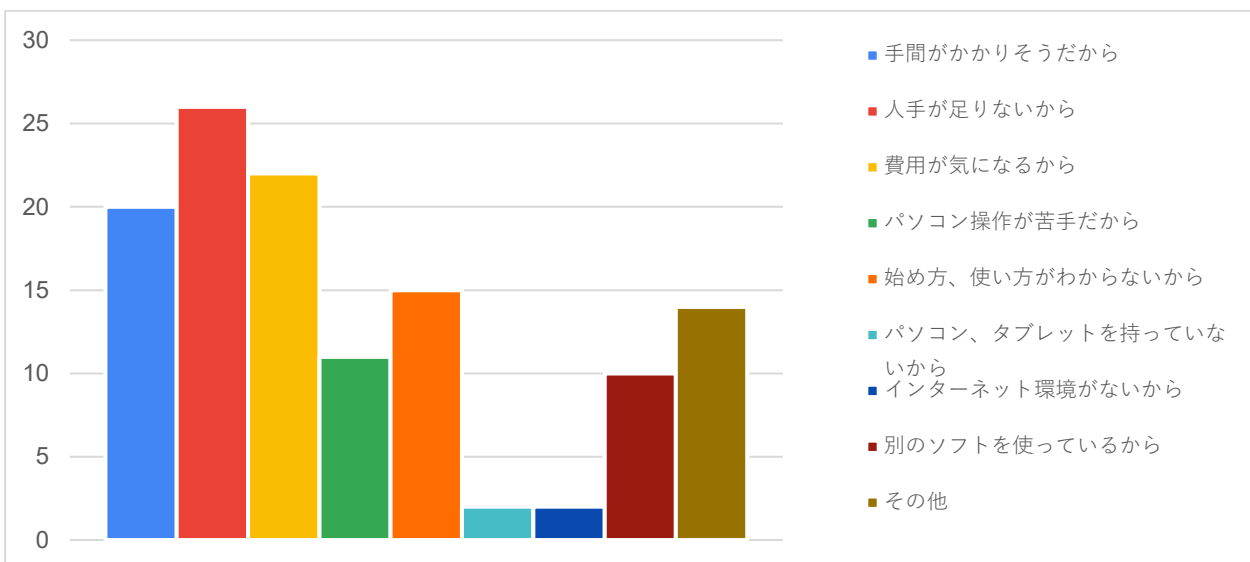
2-9) 「あなたらしさ応援プラン」のアセスメントシートに、アセスメント項目「地域とのかかわり」を入れたことによるメリットは、どのような点にあると思いますか。



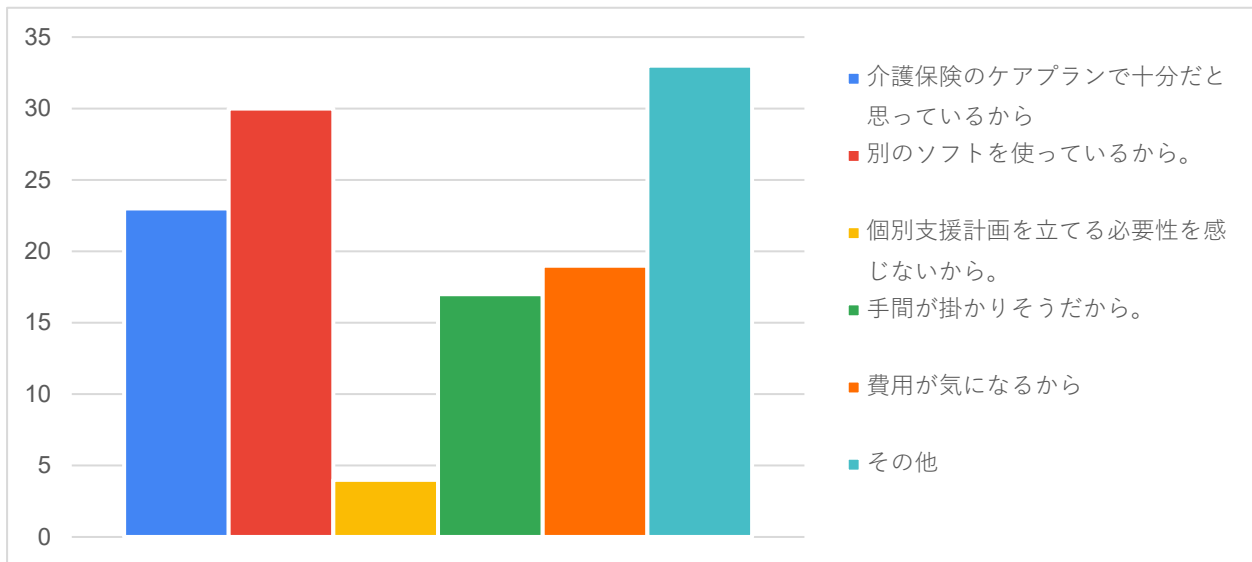
2-10) 「あなたらしさ応援プラン」の効果を発揮しやすい対象者の特性は、どのようなことだとお考えです →回答終了後 2-13) へ



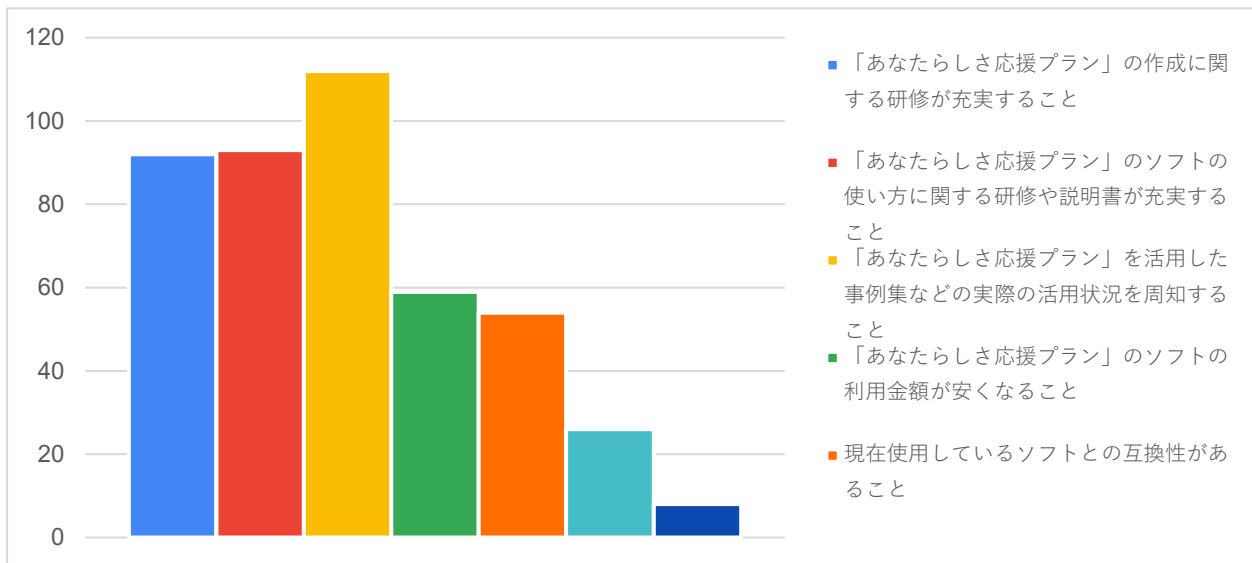
2-11) 「あなたらしさ応援プラン」を利用していない理由を教えてください。(関心があるが利用していない)



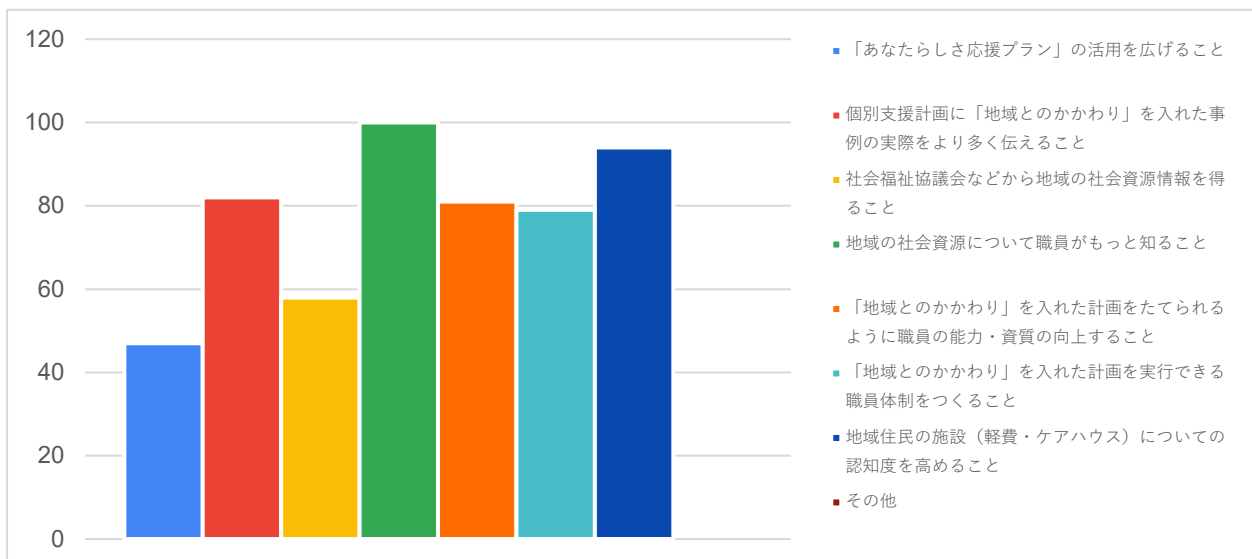
2-12) 「あなたらしさ応援プラン」を利用していない理由を教えてください。(利用していない)



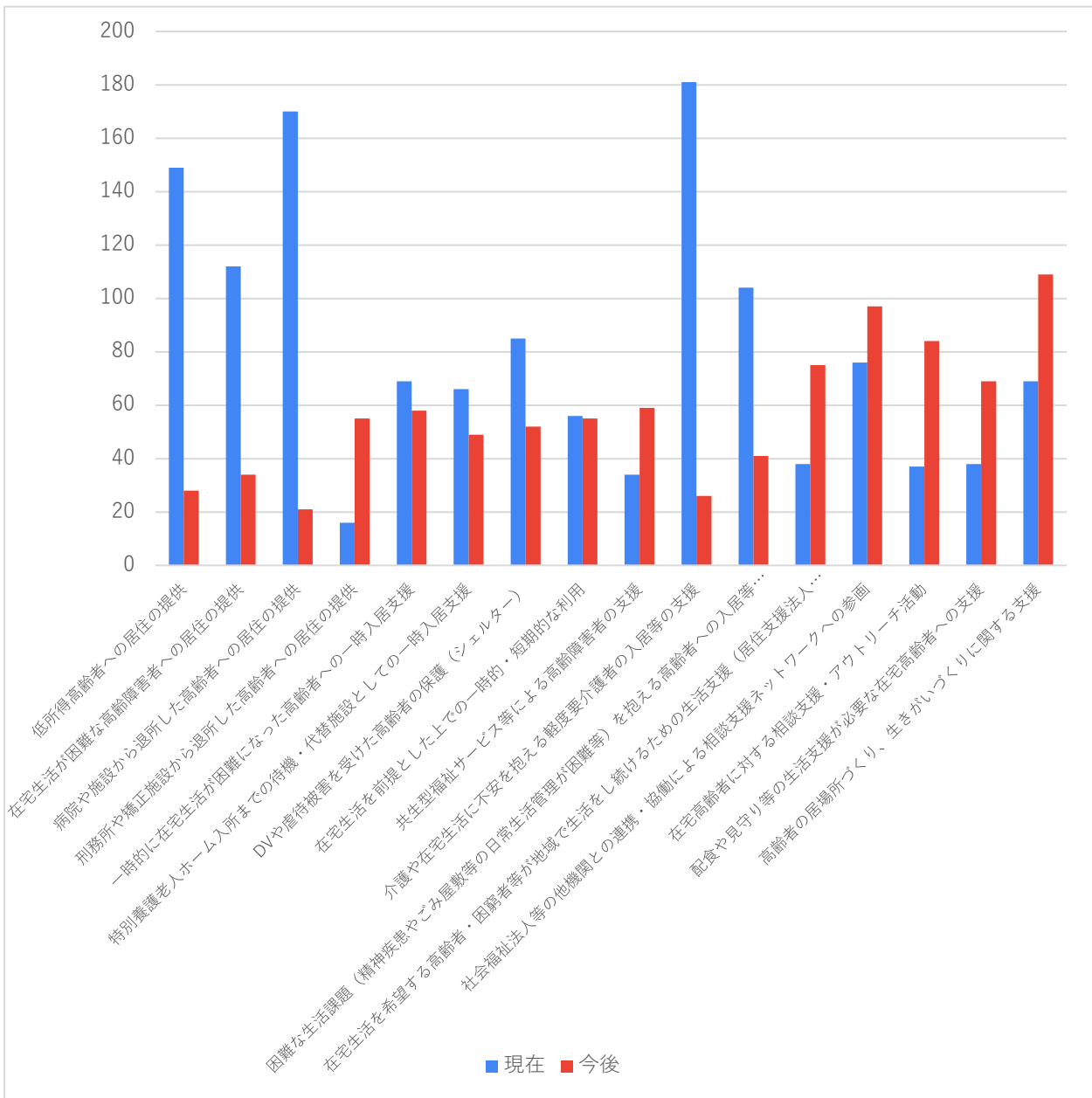
2-13) 「あなたらしさ応援プラン」の活用が進むためには、なにが必要だと思いますか？



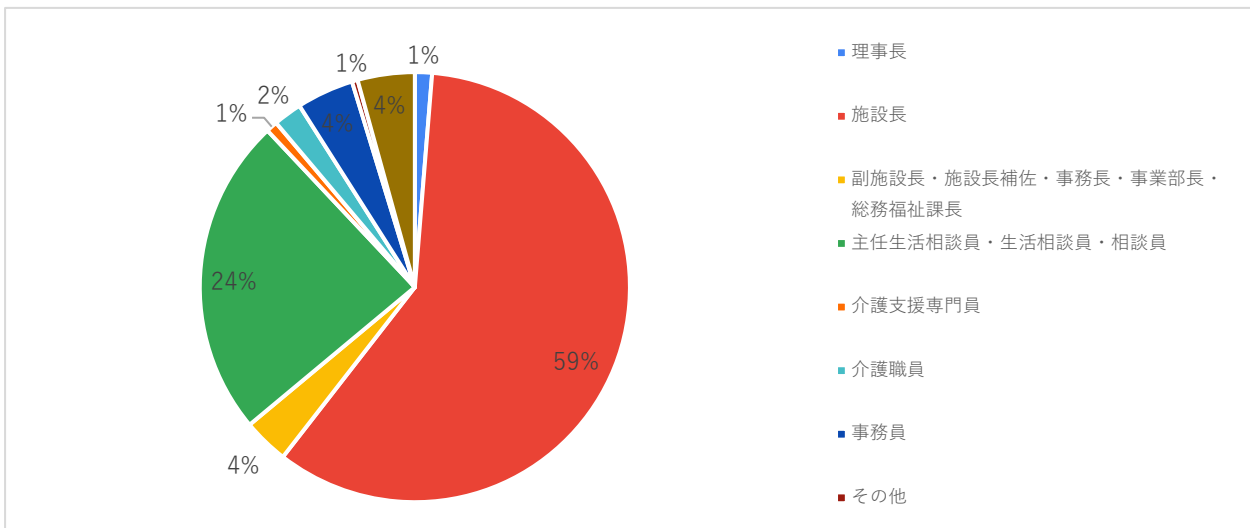
2-14) 個別支援計画において「地域とのかかわり」が支援内容に活かされることが推進されるためには、なにが必要だと思いますか？



3) 地域共生社会の実現に向けて、軽費・ケアハウスが果たす役割として、以下の項目の中で現在行っているものと、もし地域とのかかわりが得られたら（地域住民や地域からの協力が得られ）、職員体制の強化ができれば今後実施したいと思う取り組みはどれですか。



7-3) 回答者職種



4) 「あなたらしき応援プラン」について感じる事、考える事、本調査者（調査委員会）に伝えたいことなどを自由に記述してください。

「あなたらしき応援プラン」を学び、入居者様の満足度を上げたい。研修を受けた事で終わりにせず、有効活用できれば良いと思う。

アセスメントをしっかりと行い、利用者一人ひとりの強みを知る事で、利用者の強みを活かした支援ができると思う。あなたらしき応援プランを活用させてもらうことで利用者一人ひとりと向き合うきっかけとなり、個別支援の大切さについて考えられるきっかけとなっている。支援職員が活用しやすくなるような研修会が定期的に実施されると有り難い。またケアグロースの機能についても研修会があると助かる。

アセスメント力も大事ですが、日々のかかわりから情報を得た場合、アセスメントシートに記入しようと試みています。何気なく話されること、その中に大事なメッセージがある事、多いので…。それは本の中にも書かれていました。そこで…ですが、アセスメントには前向きなタイトルが多いです。けど、実際「〇〇が嫌なんだよね」「〇〇がとっても辛い」という話もよく聞きます。#5・習慣、こだわりに相当するののか？とも思いますが、ちょっと違う。#13とも違って、今の辛さがその人らしさってことも有りだと思うのですが…。その項目は#5に+ {悩み、辛いこと} があってもその人らしさかと考えますが、いかがでしょうか？

あなたらしき応援プランの素晴らしさが、まだまだ一部にしか伝わっていないのかもしれないかもしれません。これについては、全国行脚すると効果あるのでしょうか？また、もしかしたら「プラン＝ケアグロース導入」が逆にネックになっているのでしょうか？プランだけ紙代替でも伝えるようにしたら、普及するのでしょうか？利用が進まないことが残念でなりません。

あなたらしき応援プランの名称変更を検討してみてもどうでしょうか。（浸透しやすい名称へ）

あなたらしき応援プランはとても興味深く、実施していきたいと共感しています。利用者様に寄り添っていくことで、より生活が充実し、生きがいを持っていただける。また地域とのかかわりを持つことで支えあいの心で良い相乗効果があればと期待しています。しかし、いざ実施するためには、検討会や今後の施設の方向性等を話合っていかなければならない、職員一人一人の資質向上にもより努めていく必要があります、大きな労力がかかります。具体例などを共有し、どのように実施していくことが良いのか知りたいです。

あなたらしき応援プランは紙面で使っています。ソフトも使いたいのですが、ネットにつながるPCが限られているために使っていないです。ネットにつなげなくても活用できる方法等あるのでしょうか？

エンパワメントが活かされる内容になっていると思います。

お元気な方に対して、個別支援計画を立てる必要性は、長期間利用される方の経年変化を観察し、深くその人なりを理解することに役立つ点。入居者が短期間利用であったり、完全自立者には必要性が低い。特にプライバシーに入ってきてほしくない方にはアプローチが難しい。人間関係を築く上でCareGrowthを上手に活用してゆければと思います。

ケアハウス内では職員の意識は要配慮者の心身に何か問題が起こっていないかという問題点を探す（診断的）方向性に偏っていますが、「あなたらしき応援プラン」はその人に何が出来るのか、プラスの面を探しエンパワメントする取り組みですから、方向性が真逆と言っても過言ではなく、職員への意識付けが何より重要と感じています。当施設でも新入社員を苦心に少しずつ意識改革を行っている途上にあります。

これまで培ってきた貴重な「生活支援実践」を体系化し、その人らしさを大切にしたい個別支援計画の立て方の必要性を感じています。

コロナもあって、地域交流の場がどんどん少なくなった上に、その間にADL（心身共に）の低下も加速。パイプ役をしていた職員の異動等、とても活動しにくい環境にあり、職員の高齢化やICT導入の遅れ等が課題。

コロナ禍で、社会資源を活用して、地域との関わりを持つことが、難しかった。コロナ禍前のように、地域との関わりを持てるように、少しずつ社会資源の活用していく方向へ緩和していきたいと思っている。

すみません。見識不足で全く存じ上げませんでした。勉強します。

すみません。知らなかったなのでこれから勉強します。

その人らしさを残した生活を継続できることがその人にとってのやすらぎの時間であることは十分理解できません。利用者の思い・考えは一人一人違うため、プランを実現化するには職員の手が必要。家族の協力不可欠。
ソフトに興味はあるが、50人分の情報を一から入力しなければいけないので時間も手間もかかりそう。職員も高齢化してきていて、うまくあつかえないのではと思う。
とても良いものだと思います。職員のスキル不足で始めることに二の足を踏んでいる状態です。
なし
ひとりだけを対象にするのが難しい。どうしても全体的にできることを優先してしまう。
まだ活用できていないが、内容自体が施設が目指すべき指針として非常に有用と感じる。
よい取組と思います
より具体的な実例が多くあると良いと思います。
安心して暮らして頂くだけでなく、個別支援シートを活用することでその人らしさが見え、エンパワメント支援ができると（より生きがいのある生活）感じました。地域だけでなく全国とつながる点も素晴らしい事だと思います。
一度研修を受けさせていただきたいと考えている
応援プランの意義や具体的な活かし方、改善例等を現場職員に伝える機会、研修を充実させてほしい。実際のソフトを触りながらの研修を開催してほしい。
応援プランの内容はとても良く、全ての活用ができれば入居者の人間像をより把握でき、必要な支援ツールになると思う。作成するまでの職員の業務負担を考慮した期間の目途を示してくれば、なお活用しやすくなると思う。
何をすることも一般ケアハウスでは職員配置が少なく、また財政的にも厳しいため幅広い活動ができない。
何をすることも無気力な人のストレングスや生きがいを導き出し支援につなげることが難しい。
介護度・介護サービスにしばられない支援を考えられる。
強みに着目することが本当に難しいと感じています。
軽費老人ホームという元気なうちから入所する中間施設という特性上、ご本人からその人らしさをヒアリングして今後のケアに反映するということは、軽費老人ホームの重要な役割だと思います。アセスメントシートで具体的なその人らしさを求め、レーダーチャートで可視化・比較がしやすく、その上で個別支援計画の作成・評価を行うことで生活支援が充実するという効果的な流れの技法(ルーツ)なので、活用していきたいと思っています。
現在使用している（法人内グループ全体）介護システムがあり、プラス「あなたらしき応援プラン」となると費用負担が大きい。
現段階でよくわからないので申し訳ありません。ただ、地域との関わりやすさを盛り込んだプランを作成することはとても重要なことだと認識しています。
個別プランにより支援の方向性等、職員が共有できるため有効だあると感じているが、職員のスキルがついていないことが課題である。
考え方は、理解出来る。また良いものとも思う。しかしこれを導入するかどうかとなると、出来ないなぜかと言うと、単純に経費がかかりすぎるから もっともっと安価であれば検討する事ができると考える。
考え方は理解できる。また、良いものとも思う。しかし、これを導入するかどうかとなると、出来ない。何故かと言うと、単純に経費が掛かり過ぎるから。もっともっと安価であれば、検討することができると考える。
高齢者だけではなく、すべての年代において考えていくものだと思う。
最初はお一人選択して、関係職員でプランについて検討することから始めていくこと
在宅での生活継続期間が長くなり、施設入居の頃には介護を必要として入居される方が増えている。
施設での生活が充実している場合には、地域との関りまで必ずしも必要とはしていないケースも多い。
施設の立地条件が、人口密集地から地理的に離れていることもあり、社会資源の活用にも、資源の量的にも、移動時間や距離的な隔たりを感じています。もっと地域との関わりを持つことができるように考えていかなくてはと思います。その為には職員の配置基準の見直しも不可欠と思われる、施設内・外で活動可能な人員の確保が欠かせないと思う。

施設独自の計画表を使用中。他のプランも使用したいと検討したが費用もかかるため使用は難しと考えている
事例では理想と現実の乖離を感じます。入居者の「やりたい」意欲を引き出すこと、とその先の展開が難しいと感じます。入居者間の関係性で見ると職員の手伝いをする方に対して、それを良しとしない雰囲気があります（費用負担をしているのでそれは施設がするべきことといった考え）。施設内で役割を担ってもらうことが存外難しいです。
自施設できちんと計画でき、支援に反映できることが理想。そこに近付けるためにはプランを作成する人員の確保が難しいと感じている。
取り組みとしては良いと思いますが、理解度が低く、必要度が高くないと感じてしまう職員が少なからずいるため、希望する状況に至っていません。
出来ることを奪わない支援の見極めは、大変難しい課題です。
人員配置が少なく、細かすぎて手がかけられない。日々現場におわれてしまう。
地域共生社会の実現に向けて、地域との連携が必要不可欠と考えます。居住している地域課題の抽出や解決していくための地域全体で支えていく仕組みが重要だと思えます。
地域福祉の連携についての体制整備の施策化がなされればスピードも上がると考えます。
恥ずかしながら、「あなたらしさ応援プラン」について無知でした。申し訳ございません。その人らしく生活していただく為のお手伝いはとても大事であると思っています。自分らしさを見失いそうな方へのアプローチは、我々に求められる点でもあると思えます。アセスメントを通じて、その人らしさを発見・引き出せるように、本プランが活用できれば良いと思います。
当プランについてほとんど調べたり、検討をしたことがなかった 今回のアンケートをきっかけに調べてみようと思います。
特にありません
特になし
特に状態像を示すレーダーチャートは、活用できる。非常に良いです。
特に無い
入居者への生活支援に専門的なスキル・知識が求められてきていると考えられる。職員の配置基準の見直しが必要ではないか。
必要性は十分感じるが、今の所利用していない。
勉強不足ですが、あなたらしさを応援できるようにしたいと常に思っております。
本人が応援プランを本当に理解し、希望されているかが第一であること、職員は応援プランについていかに理解し、正確に伝えることが出来るかだと思います。
優れたツールであることは承知しているため、来年度の導入、運用に向けて検討をすすめている。
良いものであるが、作業量が多くアセスメントが細かすぎるので…もう少し簡易にできるようであれば有難い

5) 介護保険のケアプラン、施設独自の支援計画について、困っていること、十分でないと思っていることを自由に記述してください。

「今、必要な支援」のサービス支援は行われているが、「これからを見据えた支援」は十分でないと感じる。
・ケアプランを出してこないケアマネジャーがいる。・ケアハウスを何でも介護してくれて当然と考えているケアマネがいる。
ADL等、全くの自立の方のプランはどのようにするべきか困っている。
アセスメント力を補うようなものがあれば助かります。
ケアプランのようにはっきりとした課題や目標に比べ施設の支援計画には本人の性格やこだわり、人間関係に関する課題の方がいます。可視化しにくく、こまごまとした対応が少なくないです。課題ではありますが、解決には必ずしも結びつかない対応方法にはなるかもしれませんが、本人が安心する方法を見つけ出すことが目標となるのかと思っています。
ケアプランの周知が全職員に伝わらない事が多々あり、情報の共有に苦慮しています。
ケアプランを参考に支援計画をたてています
ケアプラン以外で週単位・デイリーで「〇〇をしよう」が続かない。
ケアプラン作成については必要なサービスの点だけではなく、地域との関わりにも着目した計画の作成が望ましいと思います。
ケアマネがついている入居者の居宅介護サービス計画書との連動を高めていきたい（目標の共有など）
ケアマネが複数介入しておられるためケアプランの質が異なっている
ケアマネジャーによりプランも違う事、施設と連携を大切にしている人とそうでない人との温度差がある。
コロナの影響もありクラブ活動が停滞している。
コロナ禍での集団生活の為、今まで出来ていた余暇活動や行事ができないため、活動費が低下していたり、施設内の交流が少ない。
コロナ禍もあるが、外出支援が充分でない。
コロナ感染予防の為、外部サービス（デイ・訪問）を2年半停止しており、ご家族の入室禁止により援助も叶わず、計画に入っていない支援を継続する事により介護員の手が回らず行事等を予定通りに実施できずにいます。
ご入居様の聞き取りが十分にできていなく、支援に繋がられていないと感じています。しかし、自立、支援の方が多いためご自分で生活を決めておられます。どこまで介入して良いのか苦慮しております。
その方の希望やしたいことを見出すことや聞き取ることの難しさや、こちらがそれを実現できる体制・対応がとれていない、十分でないと感じている。
なし
一般型なので計画を何とか作っても、具体的にしてくる人員が何せ少ない。日頃の業務で手いっぱいの中、共生社会を作っていく理念には大いに賛同するが、何せ、具体的に動ける人的見込みや職員の資質向上に取り組む研修等の時間がとれない。
一般型のケアハウスの場合、介護職員数が少なく、施設独自の支援計画作成にかかる労力が足りていない。
苑側からのプラン立案の為、本人に介護保険のように同意や主訴の反映がない
介護ニーズの発生時期と実際のサービス提供時期とのタイムラグの大きさ。
介護計画に基づいた支援、援助の難しさを感じる事が多々ある。職員数の確保も必須だが職員の資質に応じてプランの施行が出来ない事がある。
介護保険サービスのケアプラン作成について、担当ケアマネジャーのケイヒロウジンホームについての理解不足とケアマネジャー個々のスキルの差が大きいと感じる

介護保険のケアプランというのは、どうしてもサービスを提供するための動機付けになりがちになってしまいます。その中であなたを応援しているんですというメッセージを伝えていく事は困難な事かなと思われま。ケアプランとは別に「あなたらしさ応援プラン」を別に作成することが、前に進むという意欲を持ってもらえるのではと考えます。
介護保険のケアプランと施設の支援計画が合致していないことがある。
介護保険のケアプランと施設独自の支援計画が必ずしも一体化していない。ケアマネージャーやその他関係機関との連携不足も多々見られる。
介護保険のケアプランには、出来ない支援を施設独自の支援計画に挙げている。例えば、服薬の声がけは、食事の配膳時に、声掛けしている。最近、服薬の声がけ支援が必要な入居者が、増えている為、支援に限界を感じている。
介護保険のケアプランは本人の出来ない所、支援が必要な所に着目しがちなため、介護保険のケアプランを基に個別支援計画を立てようとすると、強みを活かしたプランと食い違う事があるこのプランを活用するにあたって、支援職員にとっては計画策定、情報を埋めなければいけないというハードルの高いものになっている現状がある。日常の支援の中で見つかる情報を支援計画の中に落とし込めるための仕組み化を考えていかなければならない。
介護保険のケアプラン作成を外部の居宅介護支援事業者のケアマネージャーに依頼しても、経費老人ホームの事業内容に不案内な様子で、何故高齢者施設なのに施設で援助できないか、もしくは、このサービスが必要なのか、理解が不十分な時がある。また、ケアマネのモニタリングの結果でも施設の判断となることがある。
介護保険のプランはケアマネさんと協力し困っていることはありませんが、施設独自の支援計画については、具体的な事例（計画作成の時期や内容など）や様式等を教えていただきたいです。少し不安に思うことは、50人の入居者様がいる中で、全員実施できるか。また人によって金銭的、身体的な事も含め出来ることできないことがある中で差別化しないか心配です。
介護保険を使っている人（要支援～要介護4）にはそちらで十分。ソフトリンクせずともよい。
介護保険外のケアハウスという考えがあり、利用料請求用使う介護保険ソフトに個別支援計画があります。それすら使わず独自の計画書を形式上で作るため実生活に生かされていない。
介護保険利用中の方は定期的なケアプラン更新があり、現状に合ったサービス提供がしやすいが、自立の方は状態が変わらないと入居時に聞き取りをした施設での生活の意向や目標設定のままで見直しが不十分である。
感染対策のため自治会でのイベント等が中止になることが多く地域交流の機会が減った
急変時の対応等について
計画策定、実行にかかる職員のスキル不足を感じる。
軽費が自立の方の施設という前提にある為、支援計画は更新も含めてなかなか実態では活用ができていない。
現在使用している介護ソフトとの連動ができないため再度台帳を作成したりと重複している状況です。「あなたらしさ応援プラン」に統一したいが請求ソフトとの連動も必要のため変更できないと思っています。また、介護ソフトの事業所へ相談しましたが、応援プランへの対応の予定はないとのことでした。
現場に即している様に思えない。
現場実践に活用できる有益な生活支援手法が十分でないのでは
個々の施設で独自の用紙が有ると思うが、それなりにカスタマイズできたらよいと思う。
個別に対応すると、オプション利用料が発生し、対応をためらう職員、場面がある事。
個別支援でありながら集団生活を強いられること。
個別支援計画（ケアプラン）については、軽費老人ホームの性格に合わせた支援内容となるが、軽費・ケアハウスの位置づけにおいて、社会的なニーズを感じながら、社会福祉施設としての役割を担うにあたり、制度上の限界を考えざるおえないと感じております。職員の配置など体制が整えられる事、運営主体である事務費補助金の増額が実現し支援を充実させるための経費として運用できれば、受入れられる入所者の方々の幅が広がり、支援の内容にも多様性が見いだせるのではないかと考えます。

個別支援計画の重要性を、分かる職員が少ない
御本人の生きがいについての支援が不明確。
今回のCare Growthあなたらしさ応援プランがword,excel,その他介護ソフトとデータ移行ができたり、連動できたりすると使いやすいのではないかと思います。事業所と円滑に申し送りをしようとすると同様式の方が話しがしやすいと思います。
今後の経営を考えると、介護度の高くなった方に対しての独自の支援について考えていく必要がある
支援計画に対する利用者の意識、理解が得られづらい（自分でできるから支援計画なんていない という方が多くみられる。） ケアプラン＝介護や支援が前提 支援プラン＝継続して自分ができるように促すもの というところで矛盾もしている。
支援計画の立て方が具体的にわからい職員は多い→研修等が必要 計画の見直し、変更が迅速にできていない
支援計画を立てることに重点がかかり、その後の見直しが不十分になっている。
施設の形態によっては外部サービス以外の対応をしている施設もあり、ケアプランと応援プランの両方の作成が必要であり、通常業務のプランに繋がり兼ねないこと
施設の支援計画をたてる時に本人への聞き取り、同意・面談を全員に行う事ができない中で計画を作成しています。また介保のプランとの連携が不十分だと思いです。
施設居住ということで、在宅よりケアプランが軽くなる傾向があります。
施設独自の支援計画には、その人らしい支援を反映させることが困難で、集団規範の中の個別性では範囲が狭いと感じている。
施設独自の支援計画書を使用しているが、ご本人、ご家族の意思や希望があまり反映されていないこと、また、課題解決に向けての具体的な目標や支援内容が不明瞭であるため、改善が必要であると感じている。
自施設で使用している介護ソフトで十分対応できている
自立している方は特段支援を求めているため、生活目標、課題を把握するのが難しい。
自立の方、要支援1または2の方に対しての支援計画が不十分
疾患のある入居者の体調管理や在宅酸素療法の管理など、介護職員が行っている。併設施設の特養の医務室と連携を図っているが、職員のストレスの原因になっていないか心配である。
職員不足
身体・精神状態に対する計画に個々人の背景や、地域との関わり、資源を結びつけていないことが多く感じられます。見直しは定期が大半であり、新しい情報の反映にタイムラグがあることが多いと感じています。
生活保護の受け入れ
相互の情報交換
退去後の視点・人生プランを含めた支援内容について、現在見直し中。
地域とのかかわりが、感染症予防対策の為に滞っている。
当施設においても、施設独自の計画書はあり、定期的にモニタリング、更新はしています。ただ、充実した内容かといえばそうではなく、モニタリングの実施と目標を立てる事が目的になっており、プランそのものが入居者様に十分活かされているかといえば、まだまだだと思っています。
特にありません
特にないが入居者の重度化に伴う支給限度額を調整した上での支援が難しい時がある
特になし
特に不自由はないと思っている。
内容が単調になりやすい。アセスメント不足
入居者の2/3がサービスが必要となっており、要介護4・5の方もおり、元気な方と要介護者の個別の支援計画に苦慮している。
入居者間の人間関係のトラブルが多くなってきた。批判・中傷など。
費やせる時間がなく、個性や独自性に欠ける。似たようなプランになりがちである。職員間での検討ができおらず、また本人の意向など汲み取れていない。

幅広い年齢や背景、おかれている状況の方が入居されているので個々の支援が規定のケアプランでは困難な状況です。又、スタッフの少ない状況の中で変化するスピードも多いのでに合わせたプランの難しさを感じております。

本件のような取り組みに意欲的に関わっていけるよう、職員個々の意識改革を進めることがまずは先決。

本人さんのできないことをいかに支援するかに重点を置きすぎており、あなたらしさ応援プランには程遠い。

本人に話を聞いて、思い等を組み込んだ支援計画を立案出来ていない。

毎年同じような支援計画で、個人に向き合ったプランになっていない。

目標設定を記載していません調整中

利用者の生活歴や強みの部分の情報など。

利用者の表面的な部分しか見れていなく、決められた型にはめて作られていること。本人にとって何が必要かを考え理解するためのアセスメントが弱いこと。

<p>6) 地域において、軽費・ケアハウスが今後ますます存在意義を高めるために必要だと思うことについて自由に記述してください。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ サービス付高齢者住宅や有料老人ホームとの差別化 ・ 地域との連携強化(地域資源の掘り起しと活用) ・ 在宅生活に不安のある高齢者及び支援者への情報発信・周知など
<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員体制の充実、資質の向上が最優先課題（職員は介護が必要ない施設という認識）。 ・ オプション利用料は廃止すべきではないかと思っております。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域コミュニティに対する貢献活動（掃除、修理、寄贈、ボランティアetc) ・ 施設内外での活動の広報
<p>・ 地域での会合、会議に参加する取り組み。・ 施設内行事や地域の行事に参加できるよう声をかける。・ 地域包括の方が地域でケアハウスについてアピールをしてもらう。・ 職員に向けて他の取り組み事例の発表等に参加する仕組みやそれに対する評価があるとよいと思う。</p>
<p>アウトリーチ活動の実施。</p>
<p>お元気な時から利用することに価値があることを伝える必要あり。</p>
<p>グループ法人で、サ高住・特養・老健他グループホームなど各種サービスがある中で在宅から施設サービスへの入り口として利用しやすさが求められる。その後必要に応じて、他の介護保険施設への移行する立ち位置にある。</p>
<p>ケアハウス・軽費の本来の役割である「安心して生活を続けられる住まい」としての機能を基本としつつ、地域ごとに必要とされる生活困難者（低所得・精神障害・虐待・認知症など・・・）への対応ができるようになるのが理想ではある</p> <p>そのためには、法人全体でサポートできる受け入れ態勢や、行政などの連携が取れる体制づくりが必要だと思う</p>
<p>入居されている方の中には「介護」や「高い専門的援助」が必要な”施設”ではなく、住まいとしての安心感を求めてケアハウスを選ばれている方も多いため、あまり困難ケース対応が多くなることも違和感を感じる。（「ケアハウス」として行う必要性が本当にあるのか、適切なのか）</p>
<p>ケアハウスについて、知らない人が多いのが事実だと思います。周知活動が重要。</p>
<p>ケアハウスの位置づけ。（ケアハウスはどういった施設か地域の方が理解されていないことが多いので、まずそこからだと感じます。）</p>
<p>ケアハウスの施設としての特性、良い所と地域に自由に参加できる（自由意志での活動）ができる事をアピールしていくことが必要と考える。</p>
<p>ケアハウスは見守り支援や軽い介護が必要な方が、安心した生活を送るための受け皿であり、軽費で入居できるところもメリットと考えるが、できる限り在宅での生活を望む方が増えたことにより、入居者の確保が難しくなっている。それに伴い、入居者の高齢化や認知症状、介護状況の進行により環境整備や職員のスキルアップが必要と考えている。</p>
<p>コロナの3年間、ボランティアの方々もそれぞれ地道に活動を続けて下さっていたようで、次年度は3年前に盛り上がったウクレレサークルとの交流を再開します。声を掛けた時に快く「又行きます」と答えて下さり、更に「一緒に集まってくれるのは、1人でも2人からでもいいからね」と。感染症によって閉ざされたのではなく、地域の方の居場所としても関係を持ち続けることが大切だと感じました。あきらめずに電話をかけまくって、施設PR大事です。</p>
<p>コロナ禍のため地域住民を交えた取り組みが行えなかったのが、地域清掃などの活動を行う。</p>
<p>コロナ感染症の流行により地域の子供たちとの交流が中止となっておりました。今後として施設の近隣の貧困家庭や住民の声に耳を傾け、施設としてできる社会活動に取り組んでいくことが存在意識を高めていくことを考えております。（以前は盆踊りやバザーなど開催しておりました）</p>
<p>サービスの周知</p>
<p>フォーマル、インフォーマルサービスの内情把握</p>

まず、行政サイドのケアハウスのハード面の劣化に対する補助・物価高騰に対する補助が余りにも現実離れしており、この様なことでは頑張れない。
まず、職員が定着するように考えなくてはと思います
まず職員の意識改革からと考えています
まだまだケアハウスの存在が知られていない 周囲に分かってもらいもっと多くの方に利用していただきたいと考える
より低所得の方が利用できる仕組みの導入
安心して生活を送って頂くための適切な支援。
一人暮らしが不安に思う60歳以上の方は、多い。最近では、高齢者が在宅中に強盗に襲われる事件が起きていることを思うと、軽費・ケアハウスへ入居することは、セキュリティー面で、安心を得られる。「詐欺や強盗の事件を耳にするたびに、軽費・ケアハウスへ入居していて良かったと思う。安全安心に思う。」と実際に入居者よりお言葉を頂いている。高齢者の一人暮らしを狙った犯罪が増えていることから、軽費・ケアハウスの認知度を上げていきたいと思う。
運営法人の強みを活かした地域ニーズに応じた対応
介護の充実
介護施設と同義で認知されることが多くあります。当施設は野菜や小物を地域で販売する取組みを行っていますが、それを知り驚かれる事もしばしば。ご利用者・職員が地域へ出て、ご利用者、施設の実態を知っていただくこと認知度の向上が必要と考えます。
関係機関各所との連携
虚弱、軽度要介護者のみならず、特養待機病院、老健から戻る場所としての役割を果たすこと。この間きちんとケアができ、心身機能の回復、家族間の調整もできれば更に在宅への復帰も可能になる。施設、病院と在宅の間でその方達の状態にあわせてケアを提供できる存在となること。
近年は、少子高齢化社会が進む中で、独居の高齢者、貧困や引きこもり、DVなど人によってさまざまな支援が必要なケースがあります。 ケアハウスの存在意義を高めるためには、やはり地域社会にとって必要となされること、その為には、様ような分野との交流や他部署との連携を通して、今の時代や未来を見据えて、私たちができる事を考え検討していく事が大事と思っています。
近隣、企業や学校との連携
軽度者の方の相談を多くお受けしており、ある一定程度の方の受け入れも可能な職員体制やケアの質の確保が求められる。そのためには処遇の改善、特に介護保険施設との格差が大きすぎる。
軽度要介護者の受入れの促進（特定施設の拡充）
軽費、ケアハウス、入所条件等が医療機関・役所等職員に周知できていない。理解してもらえるような事が必須だと思う。
軽費、ケアハウスがどのような施設か分からない方もいるため、地域との繋がりを強化し、軽費、ケアハウスについて知ってもらうとともに、施設へ入所しても地域との繋がりは継続する事も知ってもらう必要がある。 また、気軽に相談できる環境づくりを進めていかなければならない。施設を見学・体験する機会を作り、地域に出向く機会を増やして頂くことも必要だと思う。
軽費、ケアハウスのみならず、高齢者福祉の制度の社会的認知に力を入れる必要があると思う。
軽費、ケアハウスの認知度

<p>軽費/ケアハウスでの生活が独居生活よりも安心で楽しいこと。自立できなくなってから施設入所するのではなく、その前に入居することで自立した楽しい生活が長く送れるという実績とその科学的報告が出来、認知度が上がること。</p> <p>また、今後ますます保証人がいない入居希望者が増えることが容易に想像できる。たとえば全軽協で保証機関を作る、あるいは提携した信頼できる保証会社等があると安心して入居につながると思う。</p>
<p>軽費・ケアハウスにおける地域ぐるみの集団生活が、生き生きとした生活を送りたいという入居者のニーズに応え続けること「ケアハウスこそが地域共生社会の核となる、先駆的な地域なのだ」と価値を提供し続ける事が必要だと思います。</p>
<p>軽費・ケアハウスの機能や施設としての性格を社会に広く認知してもらうためのPR活動を継続的に取り組む必要性があると感じております。また、入所対象者となりうる高齢者の方々が施設を選択する際にわかりやすい制度理解ができるようにするための仕組みを系統的に構築することも必要であると考えます。</p>
<p>軽費・ケアハウスの施設の役割や入居対象者に自立の方が含まれていることを知らない場合が多い。また、自立の方も多いため、地域住民としての役割を持つことができる機会を設けていくことが必要。</p>
<p>軽費・ケアハウスの認知度の低さは感じている。説明をすると、こういった施設があるんだね、と言われることが多い。コロナ禍の中ではあるが、ケアハウスがこういった施設であるかの広報活動などが必要か、と思う。</p>
<p>軽費・ケアハウスの認知力を上げる事</p>
<p>軽費・ケアハウスを広く社会に認知してもらう事。当施設は一般のケアハウスで看護師はいないが、病院受診時に医師に看護師不在の為、医療的な対応はできないと伝えてもなかなかわかってもらえない。</p>
<p>軽費ケアハウスがどのような場所か（入居条件、料金、サービス内容等）の周知 地域行事への参加、地域から施設行事の参加（相互の交流）</p>
<p>軽費ケアハウスの制度について、県の理解不足を感じる。制度が国から移管され、事務委託されているように、仕方なしにやっている感が満載である。したがって、県の担当部署に対して、軽費ケアハウスの存在意義を啓発してゆくことが、存在意義を高めるために必要ではないか。</p>
<p>軽費ケアハウスの認知度が依然として低いと感じます。情報サイト等活用していますが、メディア等の露出が少ないと思います。</p>
<p>軽費らしい生活支援が行政等に認知していただくことが重要だと思う</p>
<p>軽費老人ホームの存在意義の認知度を上げる必要がある。地域へのアウトリーチ活動を通して、認知度・理解度が高まると良い。「安心付き住まい」といったキーワードをアピール材料にする等。</p>
<p>軽費老人ホームの認知度の低さが顕著である。</p>
<p>軽費老人ホーム存在意義が地域によって（行政の）違うように感じる。存在意義を高めるために、地域交流の機会を増やす。情報発信を活発に行っていくことが必要に感じる。</p>
<p>県や自治体、自治会や老人会、子ども会といった様々な会が行う催事、研修活動への参加と老協や経営協、全軽協や介護付きホーム協会、介事連等の乱立している現状の協会同士の融合</p>
<p>現在、施設の宣伝はしていないが、利用者様のご家族の口コミ、病院のSWからの問い合わせが続いている。それを思うと、たくさんの広告より、丁寧な説明が重要に思える。それがいずれは施設の存在感を示せるのではないかと思う。</p>
<p>現在の高齢者施設の多様化と複雑化により、軽費老人ホームの認知度不足が以前にもまして顕著になってきているので、関係団体等が一体となって認知度の向上に取り組む必要があると思います</p>
<p>現在完全にストップしている地域の教育機関との交流の再開、施設を開放しての交流会等の行事の企画・実施により、地域の方たちとのふれあいの時間を設けることが必要だと考えています。</p>
<p>広報活動</p>

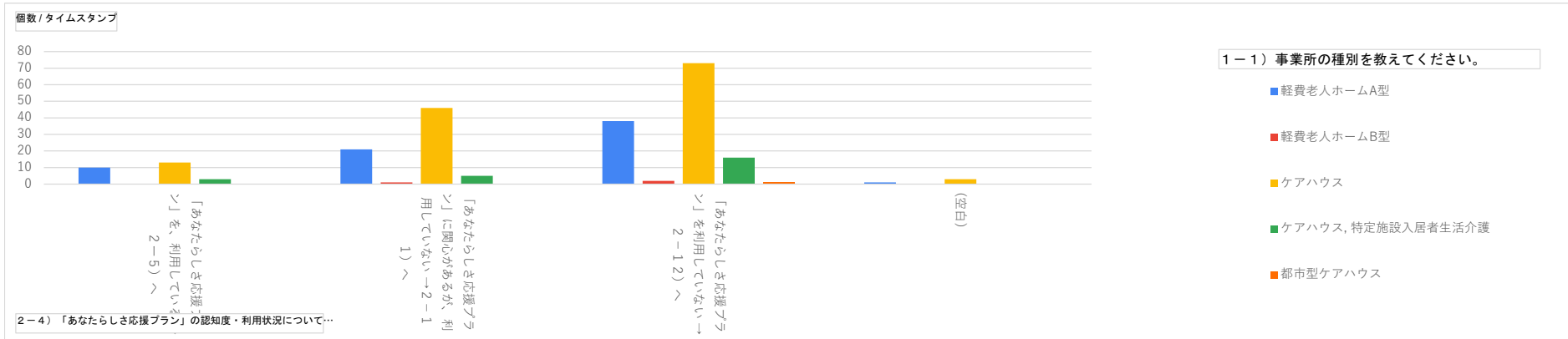
行政との連携、新しい分野へのチャレンジ、軽費の周知、生活保護の方が過ごせる軽費。奈良市では（保護費足りない）
行政と連携を深め養護老人ホームに入れられない方の受け入れ。
高齢化社会の中、益々寿命の延命を考えた時、家族との関係性も希薄となり、軽費ケアハウスが低額な利用料で安心安全を希め、かつ、健康面のフォローもしてくれるようならば、これほど高齢化に向く施設はないと考えます。
高齢者のサークル活動、ボランティア等のコミュニティに積極的に参加し、施設での生活状況について情報発信する機会を増やしていくこと。
今般の経済情勢、物価上昇等による運営費の圧迫が重くのしかかっています。自助努力で負担出来ない状況にならない様に願っています。
困ってから連絡するところのような存在ではなく、ケアハウスがどんなところか理解して頂くための発信（会報、通信等の作成と配布、説明会、見学会の実施、地域の会合への出席）をする。
困難事例の受入
災害時の支援などの強化
残念ながら、周知できていない。高齢福祉課の職員やケアマネージャーが知らない。
施設が地域に向けて情報を発信したり、イベント（健康に関して等）を企画していく必要がある。
施設の周知
施設の存在PR
施設を利用してもらう事が大切だと考えるのでコロナ感染症が落ち着けば、会議室の貸出や駐車場を利用した祭りの開催、防災訓練を実施したい。
施設設備や人員を、もっと地域住民に利用してもらう必要があると考える。
事例の発表、PR。多くの施設でのエンパワメント支援。
社会貢献事業（大阪しあわせネットワーク）、地域サロンへの出前講座・認知症カフェ・イベントプランを積極的かつフットワーク軽く開催し地域に周知していく必要があるのではないのでしょうか。
社会福祉法人であるなら、低額での利用のしやすさは必須と考えるが、ユニット型になって低額の利用の部分が希薄になってきたと考えます。
住み慣れた地域の中で高齢者が住み続けられる地域包括ケアには、社会福祉協議会や地域包括支援センターが専門として活動しているが、地域包括ケアの中で経費・ケアハウスの役割としては、独居等により日常生活に不安がある高齢者の住まいとしての役割を担っているが、ただ単に住まいとしての機能だけでなく、その中で生活には不安の払拭と新たな趣味や楽しみを享受できる事を地域に理解してもらう事が第一だと思う。
住宅機能だけでなく、地域共生の相談や一時的な利用。シェルター的な役割も必要。
縦割りの法制度から抜け落ちた方々に対しての受け皿、一時利用。地域の特性に合わせた貢献など
所得に制限を設けていただけると良いと思います。
職員が地域に出向き、「地域住民」の方と顔見知りになることが今後求められると思う
職員のスキルアップ
新築・増設が認められていない為意欲が低下している（都市部以外の県）
申し込み待機者が減っている状況で、今年度から施設紹介業者との連携を決めました。地域方々は施設の種類が理解できず、家族の状態がどの施設の対象者になるのかがわからず、どこの施設に申し込んだらいいのかわからない状況であることがわかりました。今後もっと施設がどのような場所であるのかを発信していく必要があると思っています。
身寄りのない方や身元保証の民間サービスの利用が金銭的に難しい方の受け入れ。
人材確保、定着による施設経営の安定に繋がる国や自治体からの補助の体制拡充への働きかけ
生活困窮者であり身内がない方への支援方法を確立することが今後の軽費・ケアハウスの役割と感じています。

生活相談員スキルの向上。いろんな種別の施設がありますが、ソーシャルワークの力をより生かされるべきは、軽費とデイサービスの相談員と思っています。
宣伝力、職員の介護知識、技術の向上
多年齢層のかき根を超えて交流を図ることが必要だと思う。入居者は横山錦寿苑自治会を構成し横山連合自治会に加盟して吉香公園の掃除など地域の活動に参加している。
単に低額で入居できる施設というだけでなく施設活動を地域にどんどんPRする事により地域からの理解と認知が深まり必要な社会資源となると思います。
知名度を高める
地域が何を施設に求めているのかしっかりと把握すること。地域で不足している資源を理解しそれに取り掛かること。
地域での困りごとの把握と社協等とのアプローチが求められていると感じます。
地域においての施設の存在意義を職員一人一人が認識を深め利用者のケアにあれば利用者のマンパワーを引き出すことで、交流や貢献につないでいけることができると思います。利用者一人一人の存在意義を高めることこそ施設の存在意義だと思います。どのような状況においても地域との交流を方法を模索しながら絶やさず続けていくことが大切かと思います。
地域における独居老人の受け皿機能を強化していく必要があると考えます。
地域に開かれた存在になるために個別の交流や施設の設備の活用、イベント等を行いたいです。コロナで3年程休止中。来年度、4月以降は再開したいです。
地域に根づく活動や地道に行っていく事。
地域に根差すためにも是非介護業界の統一化に向けて動いてほしい。社福だけが介護ではない。民間の有料やデイ、小規模な事業者や介護業者も含め、全介護業界の統一化が地域への大きな発信になると思っている。
地域に周知され、社会資源の1つだと感じていただく為にコロナ禍の終息状況をみながら、地域交流を深め、存在をわかってもらえたら良いと思います。地域交流の方法については他施設様から情報をいただけますと幸いです。
地域に出向いて宣伝する。地域の行事に参加する。
地域の一員として、1つ1つの役割を丁寧に果たしていく。
地域の活動に貢献することで、地域の中での知名度を上げる地域のボランティアをお願いして、喫茶や行事に参加して頂き施設を知って頂く。
地域の社会資源の一端を担えるよう、経費・ケアハウスという施設がどのようなものであるかを福祉だけでなく医療現場においても周知していくことが肝要だと思います。
地域の人に対してケアハウスとはどんな方が利用する施設なのか理解していただく働きかけが必要である。問い合わせの中で、ケアが付くため、介護をしてもらえる所と考える人もいれば、「自立していないと入れない」「介護認定を受けていないと入れない」「介護認定を受けていると入れない」と質問があった。
地域の福祉資源との連携
地域の方との交流の機会を作っていく必要があると思う。
地域の方にケアハウスについて知ってもらえる活動をしていくこと。
地域共生社会の実現に向けて、軽費・ケアハウスが果たす役割を求めていくには職員配置が少ない。また、一般財源化されてから運営費補助金等の改定がほとんどされず、現状の物価等にあっていない。職員雇用をするうえでも最低賃金は上がるが、収入は変わらない。
地域交流を含む積極的な活動。
地域行事に積極的参加し、施設の名前を紹介
地域行事への入居者の参加

地域住民が行き来できる環境作り
地域住民も高齢化してきており、相談相手や話し相手が近くにいないこともある。門戸をひらけ、利用者と地域住民が交流できる場を作り、地域から頼られる施設にならなければいけない。
地域町内会との連携
町内会との関係強化。コロナ禍で薄れてしまった関係性の再構築。
低額で利用出来る事と、ほぼ居宅に近い環境で見守りや食事の心配をしなくて良いと言うメリットの世間的認知度を上げる事
低所得高齢者をはじめ多様な生活支援を支えてきた軽費老人ホーム・ケアハウスの存在意義「生活支援実践」を体系化すること
低所得者支援を行っていること。自立心が高いこと。
当施設は、同一敷地内に複数の高齢者施設、地域包括センター病院等があり、経費やケアハウスは知らなくても、自分が申し込むことが出来る施設にたどり着く事が出来ているので殊更、経費・ケアハウスに限ったアピールはしなくとも法人としての、地域へのアナウンスが出来ていれば良いと思っている。また、利用者が口コミで友人知人に話しているので、意外とその関係での、利用申し込みも多いです。
特になし
特に軽費のような安価な費用で入居できる施設があることを周知することが大切だと思います。
日々の施設業務をこなすことでいっぱいという現状ではあるが、施設内にとどまらず地域の福祉ニーズを把握し、それに応えるために施設の外へ出る事が必要と思う。それを行うためには、職員の意識改革もしていく必要がある。
入居についてお問い合わせを市内市外の方から問い合わせを頂きますが、どんなところか分からないのでと仰られる方がほとんどです。まずは、知って頂くことが大事かと考えております。
入居希望者にこまめに早めに対応していくこと。地域の方々に対してかかわりやすい環境づくり。
入居者がその人らしく生活できるように、健康管理、食生活のアドバイス、運動習慣として体操を実施しています
入居者が社会参加、地域貢献できる活動を地域住民・関係機関と協働していくこと。
入居者の安い価格での住まい。地域での交流の場としての機能
入居者様の地域交流だと思います。コロナ禍をきっかけに、地域との交流が一段と少なくなりました。地域における文化祭に作品を出展させて頂いたり、夏祭りの参加、その他様々な形で交流を図ってきました。地域交流を通じて、地域の方がいきいきと生活される入居者様と接する時間が増える事で、存在意義を高める事が出来ると思います。
認知度が低いため、SNSやインターネットを活用し、情報提供を行う。他の老人ホームと比較して価格面の優位性や外出等が可能である等の他施設では出来ないことの特性を大いにアピールすることが必要だと思う。
認知度を高める必要がある。
本来のケアハウスでは比較的元気な方が入居の対象ではあるが、今入居を希望されるのは狭間の方がほとんど。今までの対応ではこれからのケアハウスは存続が難しくなるのでは。
養護老人ホームの措置控えにより、行き場をなくした社会的、経済的課題を抱える高齢者への入居等の支援。
料金形態や有料との違い等を広く知ってもらう努力

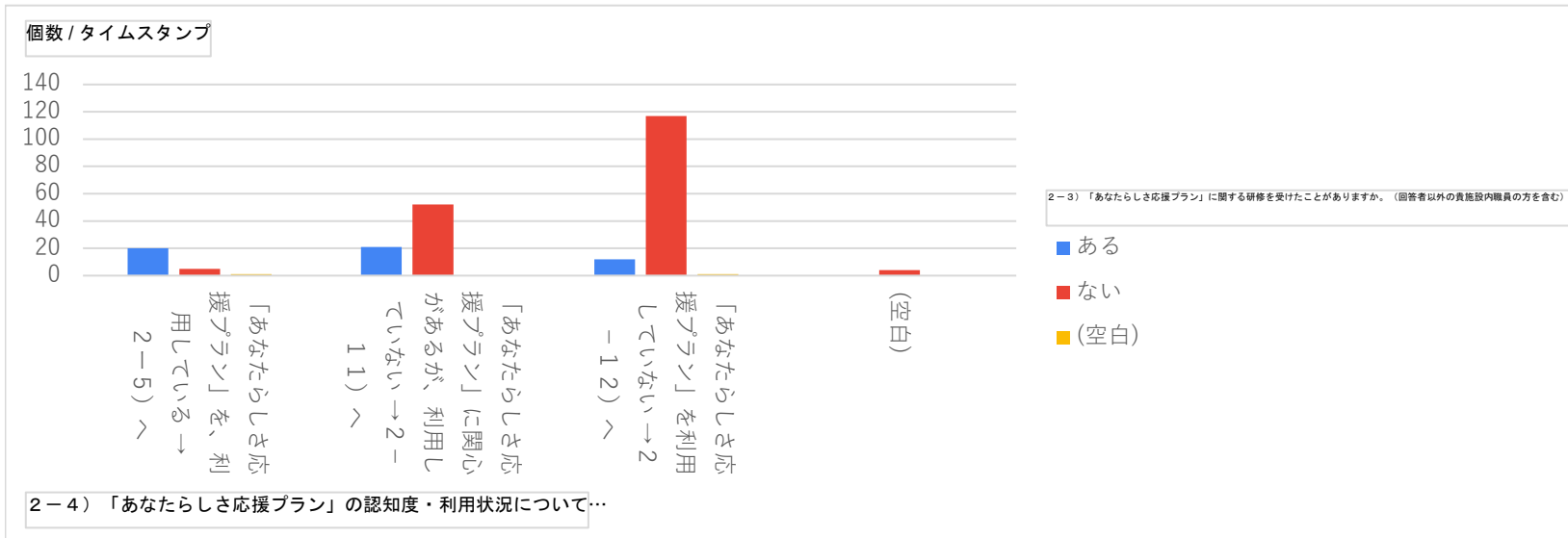
クロス集計：「あなたらしき応援プラン」を利用しているか？×事業所の種別は？

個数 / タイムスタンプ 行ラベル	列ラベル					総計
	軽費老人ホームA型	軽費老人ホームB型	ケアハウス	ケアハウス, 特定施設入居者生活介護	都市型ケアハウス	
「あなたらしき応援プラン」を、利用している → 2-5) へ	10		13		3	26
「あなたらしき応援プラン」に関心があるが、利用していない → 2-11) へ	21		46		5	73
「あなたらしき応援プラン」を利用していない → 2-12) へ	38	2	73		16	130
(空白)	1		3			4
総計	70	3	135		24	1 233



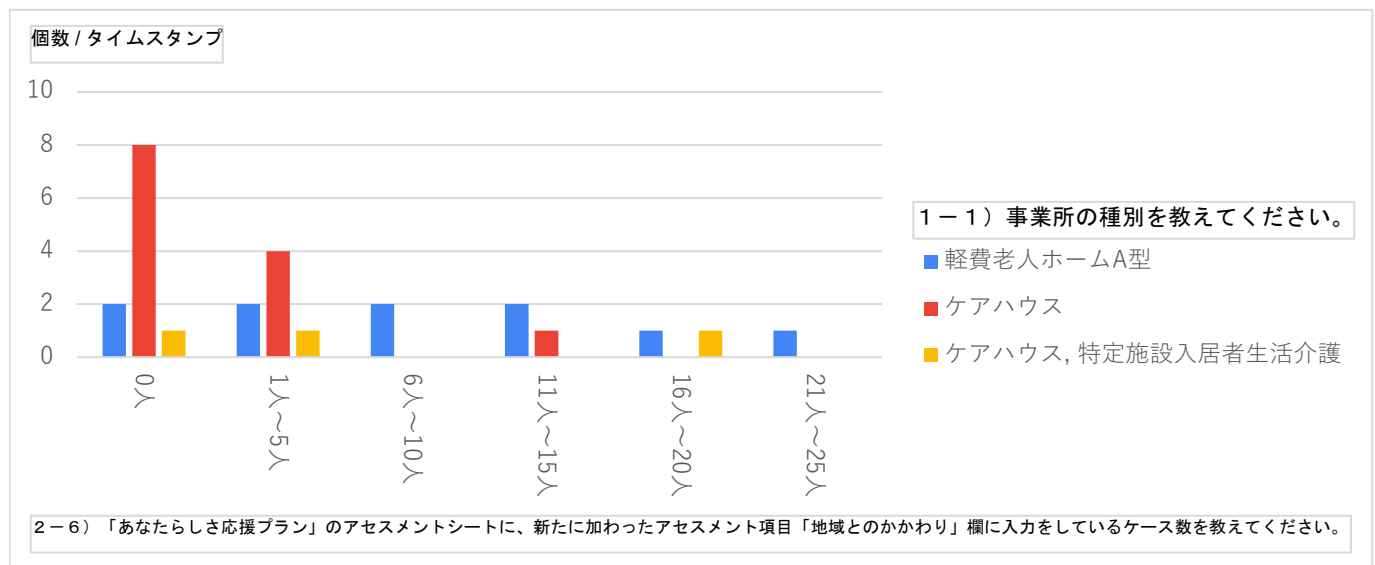
クロス集計：「あなたらしさ応援プラン」を利用しているか？×「あなたらしさ応援プラン」に関する研修を受けたことがあるか？

個数 / タイムスタンプ 行ラベル	列ラベル			総計
	ある	ない	(空白)	
「あなたらしさ応援プラン」を、利用している → 2-5) へ	20	5	1	26
「あなたらしさ応援プラン」に関心があるが、利用していない → 2-11) へ	21	52		73
「あなたらしさ応援プラン」を利用していない → 2-12) へ	12	117	1	130
(空白)		4		4
総計	53	178	2	233



クロス集計：「地域とのかかわり」欄に入力をしているケース数は？×事業所の種別は？

個数 / タイムスタンプ 行ラベル	列ラベル			総計
	軽費老人ホームA型	ケアハウス	ケアハウス, 特定施設入居者生活介護	
0人	2	8	1	11
1人～5人	2	4	1	7
6人～10人	2			2
11人～15人	2	1		3
16人～20人	1		1	2
21人～25人	1			1
総計	10	13	3	26



クロス集計：「地域とのかかわり」欄に入力をしているケース数は？×「あなたらしき応援プラン」に関する研修を受けたことがあるか？

個数 / タイムスタンプ 行ラベル	列ラベル		総計
	ある	ない	
0人	8	2	10
1人～5人	6	1	7
6人～10人	1	1	2
11人～15人	3		3
16人～20人	2		2
21人～25人		1	1
総計	20	5	25

